

小学校・中学校・高等学校

キャリア教育推進の手引

- 児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために -

平成18年11月

文部科学省

まえがき

「キャリア教育」という文言が、文部科学行政関連の審議会報告等で初めて登場したのは、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」(平成11年12月)であります。この答申は、学校種間における接続だけではなく、「学校教育と職業生活との接続」の改善も視野に入れたものであり、具体的には「小学校段階から発達段階に応じてキャリア教育を実施する必要がある」と提言されました。

その後、初等中等教育におけるキャリア教育の在り方については、学識経験者や経済団体関係者、学校教員等で構成される協力者会議を設け、平成16年1月に「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」を公表しました。この中で、キャリア教育は「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育」と定義され、「初等中等教育におけるキャリア教育の推進」が提言されました。

また、平成15年6月、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣及び経済財政政策担当大臣からなる「若者自立・挑戦戦略会議」において「若者自立・挑戦プラン」が取りまとめられ、その重要な柱としてキャリア教育の推進が位置付けられました。その後、内閣官房長官、農林水産大臣、少子化・男女共同参画担当大臣も加え、「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン」(平成16年12月)が策定され、キャリア教育の充実を図ることとされました。さらに、本年1月には、「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン」の改訂版が、取りまとめられその強化が図られています。なお、本アクションプランは、政府の「経済財政運営と構造改革に関する基本方針」、いわゆる骨太の方針にも盛り込まれているところです。

このような中、文部科学省では、平成16年度には小学校・中学校・高等学校を通じ組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法・指導内容の開発等を行う「キャリア教育推進地域指定事業」や、平成17年度には産学官の連携による職場体験・インターンシップの推進のためのシステムづくりなど地域の教育力を最大限に活用し、キャリア教育の更なる推進を図るための調査研究を行う「キャリア教育実践プロジェクト」など、様々な施策を実施しているところです。特に、中学校を中心に五日間の職場体験を行う「キャリア・スタート・ウィーク」については、本年度からは、11月を「キャリア・スタート・ウィーク推進月間」とするなど、一層の推進を図ることとしております。

しかしながら、各学校の現状を見ると、キャリア教育の必要性は理解されながらも、その意味付けや受け止め方が多様で、教育課程の見直し、体験活動等の取組が十分とは言えない状況であることは否めません。そのような状況に鑑み、このたび、先の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」の内容を、よりわかりやすくする観点から、「キャリア教育推進の手引」を作成いたしました。今後、この手引が、「キャリア教育」への理解を深めるとともに、各学校等で取組を進めていくために活用していただきたいと考えております。各学校、家庭・保護者、地域等が一体となって、子どもたちが「生きる力」を身に付け、将来、社会人・職業人として自立していくことができるよう、キャリア教育が一層推進・充実されることを期待しております。

平成18年11月

文部科学省初等中等教育局長

銭谷眞美

目 次

まえがき

第1章 キャリア教育の意義

- 1 キャリア教育の必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 キャリア教育の定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 キャリア教育の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- コラム「キャリア発達についてもう少し詳しく」・・・・・・・・・・ 6

第2章 キャリア教育の推進

- 1 学校におけるキャリア教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 2 学校の教育活動全体での取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 教育課程への位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 4 キャリア教育の推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 5 学校と社会の接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 6 児童生徒の発達段階を踏まえた取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 7 小学校・中学校・高等学校を通じた組織的・系統的なキャリア教育・・ 20
- 8 キャリア教育の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

第3章 家庭、地域、関係諸機関との連携・協力

- 1 学校・家庭・地域との連携・協力の必要性（意義）・・・・・・・・・・ 25
- 2 家庭・地域の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 3 キャリア教育推進のための家庭・地域等との連携の在り方・・ 26
- 4 職場体験・インターンシップの実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

第4章 各学校段階におけるキャリア教育

- 1 小学校におけるキャリア教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
- 2 中学校におけるキャリア教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
- 3 高等学校におけるキャリア教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

第5章 キャリア教育の進め方の例

- 1 発達段階を重視した取組例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
- 2 研修プログラム例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
- 参考「平成18年度『キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修』」
 （独立行政法人教員研修センター）

関係資料

- 1 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書(骨子及びポイント)」
 （平成16年1月28日）
- 2 「職場体験学習チャートマップ」等（「職場体験ガイド」文部科学省平成17年11月）

第1章 キャリア教育の意義

1 キャリア教育の必要性

今日、少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が進む中、就職・進学を問わず、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。また、教育を取り巻く環境も大きく変化してきており、これら社会と教育の動向から若者をめぐる様々な課題が浮かび上がっている。一方、若者の勤労観、職業観の未成熟や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の不十分さなどについても各方面から指摘されている。

このような中で、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人、職業人として自立していくことができるようにする教育の推進が強く求められている。

学校から社会への移行をめぐる課題

- 就職・就業をめぐる環境の激変**
- ・新規学卒者に対する求人状況の変動
 - ・求職希望と求人希望との不適合の拡大
 - ・雇用システムの変化

若者自身の資質等をめぐる課題

- ・勤労観、職業観の未熟さ
- ・社会人・職業人としての基礎的資質・能力が未成熟
- ・社会の一員としての意識の希薄さ

子どもたちの生活・意識の変容

子どもたちの成長・発達上の課題

- ・身体的な早熟傾向に比して、精神的・社会的自立が遅れる傾向
- ・働くことや生きることへの関心、意欲の低下

高学歴社会におけるモラトリアム傾向

- ・職業について考えることや、職業の選択・決定を先送りにするモラトリアム傾向の高まり
- ・進路意識や目的意識が希薄なまま、進学・就職する者の増加

学校教育に求められている課題

「生きる力」の育成

- 確かな学力、豊かな人間性、健康・体力 -

社会人・職業人として自立した社会の形成者の育成の観点から

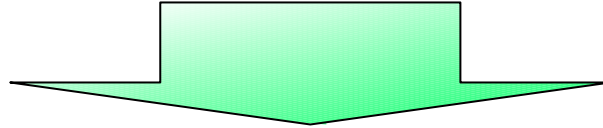
- ・学校の学習と社会とを関連付けた教育
- ・生涯にわたって学び続ける意欲
- ・社会人・職業人としての基礎的な資質・能力
- ・自然体験、社会体験等の充実
- ・発達に応じた指導の継続性
- ・家庭・地域と連携した教育

キャリア教育の推進

- ・望ましい勤労観、職業観の育成
- ・一人一人の発達に応じた指導
- ・小・中・高を通じた組織的・系統的な取組
- ・職場体験・インターンシップ等の充実

小学校・中学校・高等学校におけるキャリア教育

社会的自立・職業的自立に向けて
- 児童生徒一人一人の勤労観、職業観の育成 -



キャリア教育の推進

- ・望ましい勤労観、職業観の育成
- ・一人一人の発達に応じた指導
- ・小・中・高を通じた組織的・系統的な取組
- ・職場体験・インターンシップ等の充実

・・・能力
・・・能力

人間関係形成能力

他者の個性を尊重し、自己の個性を
発揮しながら、様々な人々とコミュ
ニケーションを図り、協力・共同し
てものごとに取り組む

・・・能力
・・・能力

将来設計能力

夢や希望を持って将来の生き方や生
活を考え、社会の現実を踏まえなが
ら、前向きに自己の将来を設計する

学ぶこと 生きること 働くこと

情報活用能力

学ぶこと・働くことの意義や役割
及びその多様性を理解し、幅広く
情報を活用して、自己の進路や生
き方の選択に生かす

意思決定能力

自らの意志と責任でよりよい選択・
決定を行うとともに、その過程での
課題や葛藤に積極的に取り組み克服
する

上記4つの能力については、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」(平成14年11月国立教育政策研究所生徒指導研究センター)における能力を例示した。

2 キャリア教育の定義

(1) キャリア教育とは

「キャリア概念」に基づいて、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」。端的には、「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」
(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書(平成16年1月28日))

また、キャリア教育について、平成11年12月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」では、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」としているが、本手引においては上記の調査研究協力者会議報告書の定義を使用した。

今日の若者の様々な課題を解決していくためには、児童生徒一人一人が自らの責任で、キャリアを選択・決定していくことができるよう、必要な能力・態度を身に付けていく教育が強く求められている。

とりわけ、初等中等教育段階では、子どもたちの発達段階やそれぞれの時期に応じた課題を達成していくためにも、一人一人の「キャリア発達」を支援していくことが重要となる。ここでいう「キャリア」、「キャリア発達」については、「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書(平成16年1月28日)」(以後、「キャリア教育報告書」とする)等から、本手引では次のようにまとめた。

(2) キャリアとは

「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」

「キャリア」とは、一般に生涯にわたる経歴、専門的技能を要する職業についていることなどのほか、解釈、意味付けは多様であるが、その中でも共通する概念と意味がある。それは、「キャリア」が、「個人」と「働くこと」との関係の上に成立する概念であり、個人から切り離して考えられないということである。また、「働くこと」については、職業生活以外にも家事や学校での係活動、あるいは、ボランティア活動などの多様な活動があることなどから、個人がその学校生活、職業生活、家庭生活、市民生活等のすべての生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として幅広くとらえる必要がある。

(3) キャリア発達とは

発達とは生涯にわたる変化の過程であり、人が環境に適応する能力を獲得していく過程である。その中で、キャリア発達とは、自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程である。

具体的には、過去、現在、将来の自分を考えて、社会の中で果たす役割や生き方を展望し、実現することがキャリア発達の過程である。D・E・スーパーは、この過程を生涯における役割の分化と統合の過程として示している。(P6コラム参照)

自分の過去・現在・将来を見据え、社会との関係の中で自分らしい生き方を展望し実現していくことは、自己の確立として青年期の発達課題とされてきたが、生涯にわたっての課題ととらえるべきである。人は、生涯のそれぞれの時期において、社会との相互

関係の中で自分らしく生きようとする。そして、各時期にふさわしい個別的なキャリア発達の課題を達成していくことが、生涯を通じてのキャリア発達となる。キャリア教育は、そのような一人一人のキャリア発達を支援するものでなければならない。

キャリア発達の中心は、社会の一員として自立的に自己の人生を方向付けることであるが、一人一人のキャリア発達は、知的・社会的発達とともに促進される。例えば、小学生は小学生にふさわしいものの見方や行動の仕方に基づいて、自己と社会をとらえ、自分を方向付けようとする。その意味で、キャリア発達の理解には、まず一人一人の能力や態度、資質は、段階を追って育成されるということを理解しておく必要がある。そのために、国立教育政策研究所生徒指導研究センターでは「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」を開発し、児童生徒が将来自立した社会人・職業人として生きていくために必要な能力や態度、資質として、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「意思決定能力」、「将来設計能力」の「4つの能力」を、児童生徒の成長の各時期において身に付けることが期待される能力・態度などとして例示している。

次の表は、その「4つの能力」の説明と、さらに、それぞれを2つの下位能力に分けた例を示したものである。

表 キャリア発達にかかわる諸能力(例)

領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

(国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」から一部改訂)

3 キャリア教育の意義

子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにする教育の推進が強く求められている。

平成8年の「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（中央教育審議会）第一次答申」において、学校教育の基盤をなすものとして、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力など、「生きる力」が提唱され、その育成が強く求められてきた。「生きる力」を育成するという基本的な考え方に立ちつつ、学校教育に求められているのは、「学ぶこと」と「働くこと」を関係付けながら、子どもたちに「生きること」の尊さを実感させる教育であり、社会的自立・職業的自立に向けた教育である。そのためには、児童生徒が社会の一員としての自己の存在を理解し、社会での職業や勤労及び学校での学習や諸活動に積極的にかかわる意欲・態度を持つよう指導・援助することが大切となる。

学校教育においてキャリア教育を推進していくためには、その意義を明確にし、学校の教育活動全体を通して、組織的、系統的に取り組んでいくことが重要である。また、一人一人のキャリア発達を促していく視点から、今までの教育を見直していくことが求められている。「キャリア教育報告書」では、各学校がキャリア教育に取り組む意義として、次の3点をあげている。各学校においてはこの意義を十分に踏まえ、学校全体として取り組めるよう工夫し、キャリア教育を進めていく必要がある。

各学校におけるキャリア教育に取り組む意義

(1) 教育改革の理念と方向性を示すキャリア教育

キャリア教育は、一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示すものである。

(2) 子どもたちの「発達」を支援するキャリア教育

キャリア教育は、キャリアが子どもたちの発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、子どもたちの全人的な成長・発達を促す視点に立った取組を積極的に進めることである。

(3) 教育課程の改善を促すキャリア教育

キャリア教育は、子どもたちのキャリア発達を支援する観点に立って、各領域の関連する諸活動を体系化し計画的、組織的に実施することができるよう、各学校が教育課程編成の在り方を見直していくことである。

第2章 キャリア教育の推進

1 学校におけるキャリア教育の推進

学校教育においてキャリア教育を推進していくためには、キャリア教育の意義を理解するとともに、校長のリーダーシップのもと、学校経営方針にキャリア教育を位置付ける必要がある。また、キャリア教育は地域との連携が不可欠なことから、校外の諸機関との連携を図りながら、適切な組織をつくることが重要である。

このようなことから、各学校においてキャリア教育を推進していくためには、次のような手順例が考えられる。

学校におけるキャリア教育推進の手順例

- (1) キャリア教育の視点を踏まえ、育てたい児童生徒像を明確にする
- (2) 学校教育目標、教育方針等にキャリア教育を位置付ける
- (3) 組織として、キャリア教育推進委員会（仮称）を設置する
校内組織、異校種間連携組織、地域の組織との連携
- (4) 教職員のキャリア教育についての共通理解を図る（校内研修）
社会の動向、学校と社会との接続
4つの能力にかかわる学習プログラムの枠組み（例）
キャリア・カウンセリングの必要性
- (5) キャリア教育の視点で教育課程を見直し、改善する
学校の特徴、課題の明確化
児童生徒の発達段階を踏まえたキャリア教育の理解
自校の学習プログラム及び取組内容の重点の設定
学校間及び校種間の関連
全体的な指導計画、年間指導計画、年間行事計画等への反映
- (6) キャリア教育を実践する
- (7) 家庭、地域に対しキャリア教育に関する啓発を図る
授業公開、学校だよりの発行等
- (8) キャリア教育の評価を行い、その改善を図る

2 学校の教育活動全体での取組

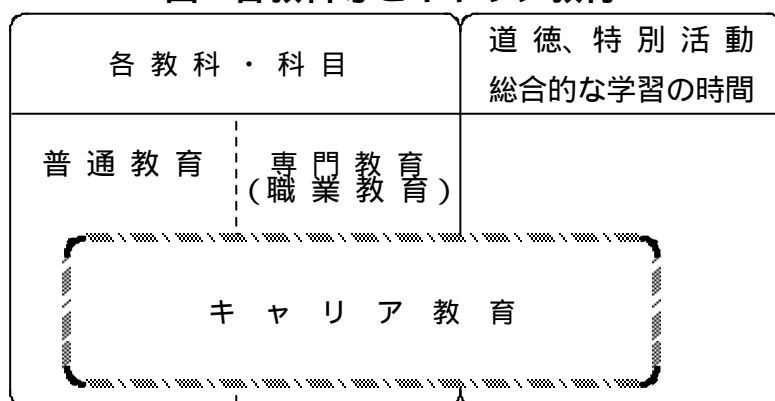
キャリア発達には、児童生徒が行う全ての学習活動等が影響するため、キャリア教育は、学校の全ての教育活動を通して推進されなければならない。

従来、進路指導を中心とする学校教育の取組においては、発達課題の達成を支援する系統的な指導・援助といった意識や観点が希薄であったり、実践を通じた指導方法の蓄積が少なかったりしたことなどから、取組が全体として脈絡や関連性に乏しく、多様な活動の寄せ集めになってしまいがちとなり、生徒の内面の変容や能力・態度の向上等に十分結びついていかないきらいがあった。こうした課題を克服するためには、教育課程の改善が不可欠である。

例えば、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の取組が、児童生徒のキャリア発達を支援する観点に立って、有機的に関連付けられているのかどうか。児童生徒の発達段階や発達課題を踏まえた上で、具体的な活動計画が立てられ、全体として体系的な取組が展開できるようになっているかどうか。あるいは、高等学校の各学科における類型やコースが、各学校の生徒の実態や進路、学習ニーズ等に応じたものになっており、生徒が自己の将来を見通す中で、科目選択等を行うことができるような仕組みが工夫されているかどうか。そのためのガイダンスの場や機会は十分かどうかなど、各学校において点検し見直すべき事柄もあると考えられる。

教育課程は、各教科と道徳、特別活動、総合的な学習の時間からなり、また、高等学校の教科・科目は、普通教育と職業教育を中心とする専門教育とに大別できる。これらとキャリア教育の関係は、大まかに下図のように示すことができる。

図 各教科等とキャリア教育



(キャリア教育報告書から)

高等学校については、普通教育で行う活動や取組もあれば職業教育で行う場合もある。普通教育においては、各教科の学習を通して、自己の生き方を探求したり、将来就きたい職業や仕事への関心・意欲を高めたりすること、また、社会や産業の変化、労働者の権利や義務についての理解を深める取組を通して、将来目指すべき職業や上級学校の学部・学科を選択する力を身に付けさせる指導が望まれる。

職業教育においては、生徒が自己の目指す将来の職業やその分野に関する知識や技能

を習得したり、具体的な情報を得たりすることを通し、必要な資質・能力をより深く自覚し、専門的な知識・技能を一層高めようとする意欲や姿勢を身に付けさせる指導が大切である。

また、特別活動、道徳、総合的な学習の時間は、それらが各教科の学習で学んだ成果等を様々な体験活動や話し合い活動等を通して深化・発展、統合させたり、逆に、その成果を教科の学習に還元し反映させていくというねらいを持っている。このため、そこで展開される職業や進路に関連する学習活動は、キャリア教育を進める上で、直接的かつ中核的な取組として最も重要な役割を担うものであり、その計画等を改善、充実することが求められる。

3 教育課程への位置付け

現行の学習指導要領におけるキャリア教育に関連する事項は相当数に上る。指導計画の作成や内容の取扱い、教育課程の編成・実施に当たっての配慮事項等にも、生き方にかかわる指導や体験活動の充実及びそれらの計画的、組織的な実施を求める記述がなされている。

小学校学習指導要領においても、中学校・高等学校のように進路指導に特化した記述はないが、全教育活動を通して行う生き方の指導や勤労観、職業観の育成等にかかわる内容は、かなり充実したものとなっていることを理解しておきたい。例えば、「第1章 総則 第5 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」には「2 (4) 各教科等の指導に当たっては、児童が学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会を設けるなど工夫すること」とあるが、この趣旨については、「小学校学習指導要領解説 総則編」で次のように述べられている。

4 課題選択や自己の生き方を考える機会の充実 (第1章第5の2(4))

これからの学校教育においては、一層変化が激しくなると予想される社会の中で、児童が主体的に対応し、自分らしい生き方を実現していくことができるように、また、平成11年度からの中高一貫教育の導入も踏まえ、小学校において、児童の発達段階に応じて選択能力を育てたり将来の生き方や進路などを考えたりする指導を工夫することが大切である。なかでも、思春期に入り、自分の将来に目を向け始める児童が多い高学年段階では、工夫した指導が望まれる。

そのためには、...(略)...。また、児童が自分自身を見つめ、自らの将来について目を向ける機会などを通して、自分のよさや可能性などに気付き、自分らしい生き方を実現していこうとする態度を育成していくことが大切である。

このような能力や態度を育てるためには、学校の全教育活動を通じて、全教職員が児童の発達段階を考慮し、計画的、継続的な指導を行っていくことが必要である。(略)

各学校においては、活動相互の関連性や系統性に留意するとともに、発達段階に応じた創意工夫あるキャリア教育の展開が必要である。キャリア教育の計画を立案する際には、どのような場や機会においてキャリア教育にかかわる内容を取り上げるのか、教育課程上の位置付けを明確にする必要がある。しかし、小学校・中学校・高等学校にはそ

	<p>和的な国家・社会の形成者としての必要な公民的資質の基礎を養う。</p> <p>(1) 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。〔第3学年及び第4学年〕</p> <p>(2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。〔第3学年及び第4学年〕</p> <p>(3) 地域における社会的事象を観察、調査し、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする。〔第3学年及び第4学年〕(他学年略)</p> <p>(1) 我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展に関心をもつようにする。〔第5学年〕</p> <p>(2) 我が国の国土の様子について理解できるようにし、環境の保全の重要性について関心を深めるようにするとともに、国土に対する愛情を育てるようにする。〔第5学年〕</p> <p>(1) 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を育てるようにする。〔第6学年〕</p> <p>(2) 日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。〔第6学年〕</p>
算 数	<p>数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに活動の楽しさや数理的処理のよさに気付き、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。</p>
理 科	<p>自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>(2) 光、電気及び磁石を動かせたときの現象を比較しながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究したりものづくりをしたりする活動を通して、光、電気及び磁石の性質についての見方や考え方を養う。〔第3学年〕(他学年略)</p>
生 活	<p>具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上に必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。</p> <p>(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、それらに愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動できるようにする。〔第1学年及び第2学年〕</p> <p>(2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心を持ち、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。〔第1学年及び第2学年〕</p> <p>(3) 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉、絵、動作、劇化などにより表現できるようにする。〔第1学年及び第2学年〕</p>
音 楽	<p>表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。</p> <p>(1) 楽しい音楽活動を通して、音楽に対する興味・関心を持ち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。〔第1学年及び第2学年〕(他学年略)</p>
図画工作	<p>表現及び鑑賞の活動を通して、つくりだす喜びを味わうようにするとともに造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養う。</p> <p>(1) 豊かな発想や創造的な技能などを働かせ、その体験を深めることに関心をもつとともに、進んで表現する態度を育てるようにする。〔第3学年及び第4学年〕(他学年略)</p>
家 庭	<p>衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活への関心を高めるとともに日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身に付け、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。</p> <p>(1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活を支えているものが分かり、家庭生活の大切さに気付くようにする。〔第5学年及び第6学年〕</p> <p>(2) 製作や調理など日常生活に必要な基礎的な技能を身に付け、自分の身の回りの生活に活用できるようにする。〔第5学年及び第6学年〕</p> <p>(3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる。〔第5学年及び第6学年〕</p>
体 育	<p>心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。</p> <p>(2) だれとでも仲よくし、健康・安全に留意して運動をする態度を育てる。〔第1学年及び第2学年〕(他学年略)</p> <p>(2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意して最後まで努力する態度を育てる。〔第3学年及び第4学年〕(他学年略)</p> <p>(3) けがの防止、心の健康及び病気の予防について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。〔第5学年及び第6学年〕(他学年略)</p>

中学校学習指導要領におけるキャリア教育に関連する主な目標・内容等

総 則	第4 総合的な学習の時間の取扱い
-----	------------------

	<p>2 総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものとする。</p> <p>(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。</p> <p>6 総合的な学習の時間の学習活動を行うに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(2) 自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。</p> <p>第6 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項</p> <p>2 以上のほか、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(4) 生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと。</p> <p>(5) 生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること。</p>
道徳	<p>第1 目標 (略)～学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。</p> <p>第2 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主として自分自身に関すること 2 主として他の人とのかかわりに関すること 3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること 4 主として集団や社会のかかわりに関すること
特別活動	<p>第1 目標 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。</p> <p>第2 内容</p> <p>A 学級活動 学級活動においては、学級を単位として、学級や学校の生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。</p> <p>(2) 個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること。</p> <p>ア 青年期の不安や悩みとその解決、自己及び他者の個性の理解と尊重、社会の一員としての自覚と責任、男女相互の理解と協力、望ましい人間関係の確立、ボランティア活動の意義の理解など</p> <p>イ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成、性的な発達への適応、学校給食と望ましい食習慣の形成など</p> <p>(3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること。 学ぶことの意義の理解、自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用、選択教科等の適切な選択、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の形成、主体的な進路の選択と将来設計など</p> <p>C 学校行事 学校行事においては、全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。</p> <p>(5) 勤労生産・奉仕の行事 勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業や進路にかかわる啓発的な体験が得られるようにするとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。</p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (2) 生徒指導の機能を十分に生かすとともに、教育相談(進路相談を含む。)についても、生徒の家庭との連絡を密にし、適切に実施できるようにすること。 (3) 学校生活への適応や人間関係の形成、選択教科や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう学級活動等の指導を工夫すること。
各教科の「目標」の中でキャリア教育に関連が深いと思われる箇所	
国語	<p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。</p> <p>(1) 自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。〔第2学年及び第3学年〕(他学年略)</p>
社会	<p>広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者としての必要な公民的資質の基礎を養う。</p> <p>〔地理的分野〕</p> <p>(2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわり度とらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせる。</p> <p>(3) 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。</p> <p>〔歴史的分野〕</p> <p>(2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。</p> <p>(3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。</p> <p>〔公民的分野〕</p> <p>(1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。</p> <p>(2) 民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とかかわりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。</p>

	<p>(3) 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。</p> <p>(4) 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。</p>
数 学	<p>数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。</p>
理 科	<p>自然に対する関心を高め、目的意識をもった観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>[第1分野]</p> <p>(4) 物質やエネルギーに関する事物・現象を調べる活動を通して、日常生活と関連付けて科学的に考える態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。</p> <p>[第2分野]</p> <p>(4) 生物とそれを取り巻く自然の事物・現象を調べる活動を行い、自然の調べ方を身に付けるとともに、これらの活動を通して自然環境を保全し、生命を尊重する態度を育て、自然を総合的に見ることができるようになる。</p>
音 楽	<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。</p> <p>(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。〔第1学年〕(他学年略)</p> <p>(2) 楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める。〔第2学年及び第3学年〕(他学年略)</p>
美 術	<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。</p> <p>(1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。〔第1学年〕(他学年略)</p> <p>(2) 対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。〔第2学年及び第3学年〕(他学年略)</p>
保健体育	<p>心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。</p> <p>[体育分野]</p> <p>(1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようになり、生活を明るく健全にする態度を育てる。</p> <p>(3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。</p> <p>[保健分野]</p> <p>個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p>
技術・家庭	<p>生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。</p> <p>[技術分野]</p> <p>実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を育てる。</p> <p>[家庭分野]</p> <p>実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。</p>
英 語	<p>外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。</p>

高等学校学習指導要領におけるキャリア教育に関連する主な目標・内容等

総 則	<p>第1款 教育課程編成の一般方針</p> <p>4 学校においては、地域や学校の実態等に応じて、就業やボランティアにかかわる体験的な学習の指導を適切に行うようになり、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させ、望ましい勤労観、職業観の育成や社会奉仕の精神の涵養に資するものとする。</p> <p>第2款 各教科・科目及び単位数等</p> <p>5 学校設定教科</p> <p>(2) 学校においては、学校設定教科に関する科目として「産業社会と人間」を設けることができる。この科目の目標、内容、単位数等を各学校において定めるに当たっては、産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科</p>
-----	---

	<p>目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習や調査・研究などを通して、次のような事項について指導することに配慮するものとする。</p> <p>ア 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成</p> <p>イ 我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察</p> <p>ウ 自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成</p> <p>第4款総合的な学習の時間</p> <p>2 総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものと2 総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものとする。</p> <p>(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。</p> <p>3 各学校においては、上記1及び2に示す趣旨及びねらいを踏まえ、総合的な学習の時間の目標及び内容を定め、地域や学校の特色、生徒の特性等に応じ、例えば、次のような学習活動などを行うものとする。</p> <p>イ 生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動</p> <p>ウ 自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動</p> <p>6 総合的な学習の時間の学習活動を行うに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(2) 自然体験やボランティア活動、就業体験などの社会体験、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。</p> <p>第6款 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項</p> <p>4 職業教育に関して配慮すべき事項</p> <p>(1) 普通科においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、必要に応じて、適切な職業に関する各教科・科目の履修の機会の確保について配慮するものとする。</p> <p>(3) 学校においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、就業体験の機会の確保について配慮するものとする。</p> <p>(4) 職業に関する各教科・科目については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 職業に関する各教科・科目については、就業体験をもって実習に替えることができること。この場合、就業体験は、その各教科・科目の内容に直接関係があり、かつ、その一部としてあらかじめ計画されるものであることを要すること。</p> <p>5 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項</p> <p>以上のほか、次の事項について配慮するものとする。</p> <p>(2) 学校の教育活動全体を通じて、個々の生徒の特性等の的確な把握に努め、その伸長を図ること。また、生徒が適切な各教科・科目や類型を選択し学校やホームルームでの生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、ガイダンスの機能の充実を図ること。</p> <p>(4) 生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと。</p>
特別活動	<p>第1 目標</p> <p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。</p> <p>第2 内容</p> <p>A ホームルーム活動</p> <p>ホームルーム活動においては、学校における生徒の基礎的な生活集団として編成したホームルームを単位として、ホームルームや学校の生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。</p> <p>(2) 個人及び社会の一員としての在り方生き方、健康や安全に関すること。</p> <p>ア 青年期の悩みや課題とその解決、自己及び他者の個性の理解と尊重、社会生活における役割の自覚と自己責任、男女相互の理解と協力、コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立、ボランティア活動の意義の理解、国際理解と国際交流など。</p> <p>イ 心身の健康と健全な生活態度や習慣の確立、生命の尊重と安全な生活態度や習慣の確立など。</p> <p>(3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること。</p> <p>学ぶことの意義の理解、主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用、教科・科目の適切な選択、進路適性の理解と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の確立、主体的な進路の選択決定と将来設計など</p> <p>C 学校行事</p> <p>学校行事においては、全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。</p> <p>(5) 勤労生産・奉仕の行事</p> <p>勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験が得られるようにするとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。</p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達段階及び特性等を考慮し、教師の適切な指導の下に、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。その際、ボランティア活動や就業体験など勤労にかかわる体験的な活動の機会をできるだけ取り入れるとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること。</p> <p>(2) 生徒指導の機能を十分に生かすとともに、教育相談（進路相談を含む。）についても、生徒の家庭との連絡を密にし、適切に実施できるようにすること。</p> <p>(3) 学校生活への適応や人間関係の形成、教科・科目や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するようホームルーム活動等の指導を工夫すること。</p>
各教科の「目標」の中でキャリア教育に関連が深いと思われる箇所	
国語	<p>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</p> <p>「国語表現」</p> <p>国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。</p>

	<p>「国語総合」 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</p>
地理歴史	我が国及び世界の形成の歴史的過程と世界・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。
公民	<p>広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有意な形成者として必要な公民としての資質を養う。</p> <p>「現代社会」 人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p> <p>「倫理」 人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p> <p>「政治・経済」 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
数学	<p>数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p> <p>「数学基礎」 数学と人間とのかかわりや、社会生活において数学が果たしている役割について理解させ、数学に対する興味・関心を高めるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し数学を活用する態度を育てる。</p> <p>「数学」 方程式と不等式、二次関数及び図形と計量について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。</p>
理科	<p>自然に対する関心や探求心を高め、観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに自然の事象・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p> <p>「理科基礎」 科学と人間生活とのかかわり、自然の探究・解明や科学の発展の過程について、観察、実験などを通して理解させ、科学に対する興味・関心を高めるとともに、科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>「理科総合A（B）」 自然の事象・現象に関する観察、実験などを通して、エネルギーと物質の成り立ちを中心に（生物とそれを取り巻く環境を中心に）、自然の事象・現象について理解させるとともに、人間と自然とのかかわりについて考察させ、自然に対する総合的な見方や考え方を養う。</p>
保健体育	<p>心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。</p> <p>「体育」 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p> <p>「保健」 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p>
芸術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。
外国語	<p>外国語を通して、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。</p> <p>「オーラル・コミュニケーション」 日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p> <p>「英語」 日常的話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>
家庭	<p>人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会のかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。</p> <p>「家庭基礎」 人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>

	<p>「家庭総合」 人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p> <p>「生活技術」 人の一生と家族・福祉、消費生活、衣食住、家庭生活と技術革新などに関する知識と技術を体験的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>
情報	<p>情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。</p>
専門教育に関する各教科	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究」専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。 ・「工業技術基礎」や「ビジネス基礎」など各専門教育における基礎科目は専門領域への興味関心を高め、現代社会における専門領域の意義や役割を理解するとともに、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

4 キャリア教育の推進体制

(1) 組織づくりと校長の役割

学校の教育活動全体を通してキャリア教育を推進するためには、校長がキャリア教育の意義を十分に認識し、キャリア教育を学校経営計画の中核に据えることが考えられる。各学校においては、校内の関係する分掌すべてを有機的にかかわらせながら、学校全体でキャリア教育を推進する「キャリア教育推進委員会」などの組織を設けることが有効と考えられる。また、キャリア教育が学校内にとどまらず、家庭や地域との連携・協力を必要とする教育活動であることから、学校の代表者としての校長の姿勢は、それらの連携・協力関係を深め、よりよい成果を生み出す上でも重要である。

(2) 教員の資質・能力向上

キャリア教育の推進には、全ての教員が、キャリア教育のベースになる児童生徒のキャリア発達や児童生徒を取り巻く社会環境の変化、さらに学校の教育活動全体を通して進められるキャリア教育の在り方などについて、十分な理解を深めることが重要となる。そして、それらを前提として、教員一人一人の資質の向上が、様々な面で求められる。

例えば、一人一人の児童生徒のキャリア発達を促すキャリア教育においては、児童生徒の個々を理解し、その変容を的確にとらえて発達を支援する「キャリア・カウンセリング」や、校外での様々な体験活動場面で、家庭、地域、企業、関係機関・団体の関係者と円滑に連携を進める際にも不可欠な「コミュニケーション能力」の向上などがすべての教員に求められる。さらに、キャリア教育の指導者的な立場の教員には、他に必要な能力として、「プログラム開発・運営・評価能力」、「調整能力(コーディネーション能力)」、「指導・助言能力(インストラクション・コンサルテーション能力)」等が考えられる。(P57参照)

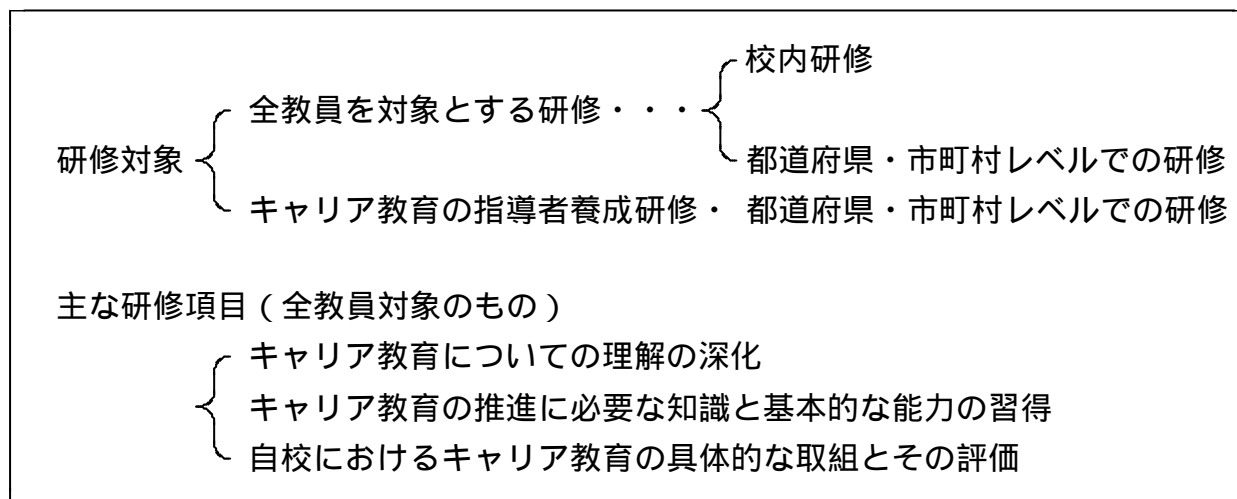
(3) 研修の重要性

キャリア教育の正しい理解や教員の資質・能力の向上を図るためには、いままでの校内研修の在り方や内容を再検討していく必要がある。また、様々な研修の機会を教員に

提供することも求められている。

既に、国においては「キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修」を実施し、各都道府県等から指導的立場の教員が参加している。地域や学校では、この研修に参加した教員を招き研修会等を実施し、広く普及・啓発することが望まれる。

キャリア教育の研修を計画する際には、次のような観点を参考にし、自校の研修課題に加えていくことが大切である。



* 研修の具体例については、第5章参照

5 学校と社会の接続

(1) 体験活動等の活用

「キャリア教育報告書」では、職場体験やインターンシップ等の体験活動には、「職業や仕事の可能性や適性の理解、自己有用感の獲得、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等、様々な教育効果が期待される」と、その意義を述べている。また、職場体験やインターンシップの他、「企業見学や社会人・職業人講話・インタビュー、大学等上級学校等の見学、聴講及び大学等からの出前授業、図書館や美術館、博物館での調査研究活動、福祉施設や幼稚園、保育所等でのボランティア体験等々」と、体験活動の具体例を幅広く示している。

そして、実施に当たっては、体験活動が一過性の行事に終わってしまわないよう、「事前指導において子どもたちに体験活動の意義をしっかりと理解させるとともに、職業調べやインタビューと組み合わせたり、事後にまとめの話し合いや討論会、発表会等を計画したりするなど、周到な準備と計画のもとに実施することが望まれる」と、事前・事後の指導の重要性を指摘している。

この事前・事後の指導の大切さにかかわって、次の3点を強調したい。

体験活動は、ただ単に事前・事後の指導ばかりでなく、キャリア教育においてどのような意義があるのか、そのねらいは何なのかなど、各学校が入学年次から

計画的、継続的に取り組む（あるいは、小学校・中学校・高等学校の12年間にわたる）キャリア教育における位置付けを明確にして、学習活動や相談活動などとの関連を図って、計画・実施されなければならない。

体験活動の事前指導では、特に、児童生徒がその意義やねらいを十分に理解し、自分なりに目標をもって望むことができるように指導することが大切である。また、事後指導では、特に、児童生徒が互いの体験を共有することができるようにすることや、それぞれが体験を通して何を感じ、考えたかなどを振り返り、その内面化を図るよう、指導内容・方法を工夫することが大切である。

各学校が、円滑かつ継続的に家庭や地域と連携して体験活動を実施するためには、体験活動の実施当日ばかりでなく、事前・事後の指導等においては無論のこと、日頃の学習活動においても保護者や地域の社会人・職業人を外部講師として招聘するなど、キャリア教育全般にわたって家庭や地域との連携を図っておくことが大切である。

（2）社会の仕組みや経済社会の仕組みについての現実的理解の促進等

「キャリア教育報告書」は、調査研究協力者会議で検討されたキャリア教育の指導内容にかかわって、これまでの中学校・高等学校における進路指導において必ずしも十分には取り上げられていなかった次のような点に言及している。

一つは、社会の仕組みや経済社会の構造と働きについての基本的理解の促進であり、もう一つは、キャリアを積み上げていく上で最低限持っていなければならない知識、例えば、労働者としての権利や義務、雇用契約の法的意味、求人情報の獲得方法、人権侵害等への対処方法、相談機関等に関する情報や知識等の習得である。

前者で、「社会の仕組みや経済社会の構造」についての基本的理解とは、今日の経済社会が社会的な分業によって成り立っており、人は職に就き、働くことを通して、その一端を担っていること、また、そのような社会的な分業の下で、相互に支え合っていることを理解するということである。児童生徒が、学習や体験を通して、このような理解を得ることができるようにすることは、働く意義や目的が見い出せないままに、就職活動等にいっさい取り組まない生徒・学生が少なくないという現状にあって、彼らに働く意義を理解させ、積極的に社会参加しようとする意欲・態度を養う上で欠くことができない学習内容である。

また、後者の学習内容は、高等学校の中途退学者や卒業時に進路が決まらないままに卒業する者が少なくない現状にあって、その後の生活や進路を考え、築く上で、また、高等学校の中途退学や卒業後に職に就き、働く上で不利益な扱いや不当な差別を受けな

いようにするために不可欠な学習内容である。

(3) 学校外の教育資源の活用

「キャリア教育を十全に展開するためには、家庭、地域や企業等との連携を積極的に進め、学校外の教育資源を有効に活用することが不可欠である」との「キャリア教育報告書」の指摘については、改めて説明を要しないであろう。教育委員会や各学校がキャリア教育に取り組むに当たっては、今日、国が取り組んでいる「若者自立・挑戦プラン」の一環に位置付けられ、厚生労働省や経済産業省等関係府省との協力・連携の下で進められていること、これらの関係機関、例えば労働・福祉・経済産業等の関係部局やハローワーク等の協力が得られてきていることを理解しておくことも大切である。

6 児童生徒の発達段階を踏まえた取組

キャリア教育を推進していく上で重要なことは、社会的自立・職業的自立が、児童生徒の発達課題の達成と深くかかわりながら、順次段階を追って発達していくことを踏まえて、児童生徒の全人的な成長・発達を支援する視点に立つて行うことである。

人間の成長・発達の過程には、いくつかの段階（節目）と各段階で取り組まなければならない発達課題があるが、これをキャリア発達の視点から見れば、学校段階別に表1のように考えられる。また、こうした発達には、自己理解、進路への関心・意欲、勤労観、職業観、職業や進路先についての知識や情報、進路選択や意思決定能力、職業生活にかかる習慣や行動様式及び必要な技術・技能などといった様々な側面が含まれる。

表1 小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達

小学校	中学校	高等学校
< キャリア発達段階 >		
進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期	現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
<ul style="list-style-type: none"> ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく勤労観、職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての勤労観、職業観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加

(国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」から一部改訂)

キャリア教育は、子どもたちがそれぞれの発達段階に応じて、自己と働くこととを適切に関係付け、各発達段階における発達課題を達成できるよう取組を展開するところにその特質がある。このため、キャリア教育を進めるためには、学校教育の実情を踏まえるとともに、一人一人のキャリアが多様な側面を持ちながら段階を追って発達していくことをあらためて深く認識し、必要とされる諸能力を意図的、継続的に育成していくことが重要である。

7 小学校・中学校・高等学校を通じた組織的・系統的なキャリア教育

小学校・中学校・高等学校において、キャリア教育を理解し、進めていくためには、児童生徒のキャリア発達を支援する観点に立って、各領域の関連する諸活動を体系化し、計画的・組織的に実施することができるよう、各学校が連携を図りつつ、教育課程の編成の在り方を見直していく必要がある。すなわち、児童生徒のキャリア発達を促す能力・態度を育成するため、それぞれの学校に応じた適切な支援をしていくことが重要である。

次の表は、「キャリア教育報告書」に示されている「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」（国立教育政策研究所生徒指導研究センター）で、社会的自立・職業的自立に向けて、キャリア発達にかかわる諸能力の育成の視点から、小学校の低・中・高学年、中学校、高等学校のそれぞれの段階において身に付けることが期待される能力・態度が、どの程度身に付いているか等児童生徒の発達をみていく見取図として作成したものである。

この枠組み（例）を参考にするなどしながら、小学校・中学校・高等学校においては連携・協力しつつキャリア教育を推進していくことが重要である。

職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例） - 職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点から

太字は、「職業観・勤労観の育成」との関連が特に強いものを示す

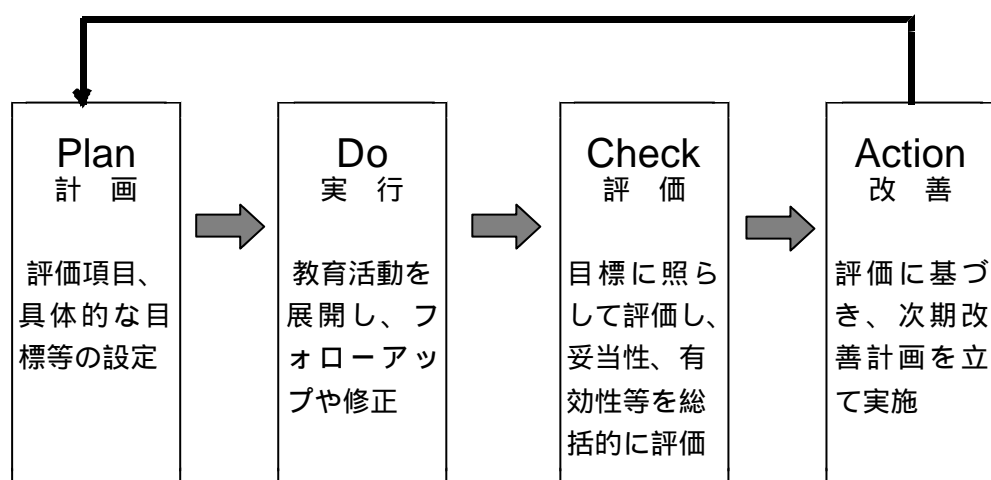
			小 学 校			中 学 校	高 等 学 校
			低 学 年	中 学 年	高 学 年		
職業的（進路）発達の段階			進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期			現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
職業的（進路）発達課題（小～高等学校段階） 各発達段階において達成しておくべき課題を、進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面から捉えたもの。			<ul style="list-style-type: none"> 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 			<ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての職業観・勤労観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実吟味と試行的参加
職業的（進路）発達にかかわる諸能力			職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度				
領域	領域説明	能力説明					
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【 自他の理解能力 】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。 友達と仲良く遊び、助け合う。 お世話になった人などに感謝し親切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよいところを見つける。 友達のよいところを認め、励まし合う。 自分の生活を支えている人に感謝する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する。 話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。 自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 自分の悩みを話せる人を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 互いに支え合い分かり合える友人を得る。
		【 コミュニケーション能力 】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	<ul style="list-style-type: none"> あいさつや返事をする。 「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。 自分の考えをみんなの前で話す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。 友達の気持ちや考えを理解しようとする。 友達と協力して、学習や活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。 新しい環境や人間関係に適應する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。 異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。 リーダー・フォロアースhipを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。 新しい環境や人間関係を生かす。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【 情報収集・探索能力 】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	<ul style="list-style-type: none"> 身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな職業や生き方があることが分かる。 分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。 自分に必要な情報を探す。 気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。 上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。 生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。 必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。 職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。 調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。
		【 職業理解能力 】 様々な体験を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことを理解していく能力	<ul style="list-style-type: none"> 係や当番の活動に取り組む、それらの大切さが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 係や当番活動に積極的にかかわる。 働くことの楽しさが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設・職場見学等を通して、働くことの大切さや苦労が分かる。 学んだり体験したりしたこと、生活や職業との関連を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。 社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。 多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【 役割把握・認識能力 】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	<ul style="list-style-type: none"> 家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの役割や役割分担の必要性が分かる。 日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 仕事における役割の関連性や変化に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。 日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校・社会において自己の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。
		【 計画実行能力 】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	<ul style="list-style-type: none"> 作業の準備や片づけをする。 決められた時間やきまりを守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や希望を持つ。 計画づくりの必要性に気付く、作業の手順が分かる。 学習等の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来のことを考える大切さが分かる。 憧れとする職業を持ち、今、しなければならぬことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。 将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。 職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。 将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【 選択能力 】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなもの、大切なものを持つ。 学校ですてよいことと悪いことがあることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 してはいけないことが分かり、自制する。 	<ul style="list-style-type: none"> 係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。 教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。 教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。 多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。 進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。 選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。
		【 課題解決能力 】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適應するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことは自分でやろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 自分の力で課題を解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。 将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かす。 よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出ししていくことの大切さを理解する。 課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくこととする。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。 自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。 理想と現実との葛藤経験等を通して、様々な困難を克服するスキルを身につける。

8 キャリア教育の評価

キャリア教育の実践が、その教育的目標を達成し、さらにより効果的な活動の実践に発展させていくためには、適切な評価を行うことが重要である。

(1) キャリア教育全体の評価

現在、マネジメント・サイクルとして、計画(Plan)を実行(Do)し、評価(Check)して改善(Action)に結びつけるPDCAサイクルが提案されている。学校運営・教育活動において有効であると考えられることから、キャリア教育の全体計画等においても、適切に評価するとともに、その評価が改善に結びつき、次期目標へ反映されることが重要である。



また、評価に当たっては、「終了時の評価」として行う目標の達成状況の評価だけでなく、課題を客観的に検討すると同時に、「実践過程での評価」として、前もって計画した活動が、効果を上げつつあるかどうか、予測しなかった問題や課題が起きていないかを確認し、必要な場合には計画の修正を考慮することなども大切である。

このようなことを踏まえ、キャリア教育全体の評価では、その前提として次のような点が考えられる。

- ・ キャリア教育の目指す目標が、具体的で明確であること
- ・ 目標が各学校や児童・生徒の実態に応じて、実行可能な内容であること
- ・ 教員がキャリア教育の意義と実践への計画、方法等を十分理解できていること
- ・ 教育活動の実行に際し、児童生徒にどのような変化や効果が期待されるか等が、具体的に示されていること
- ・ 評価方法等が適切に示されていること
- ・ 教員が、評価の目的、方法等について理解し、適切に評価できる能力を有すること
- ・ キャリア教育の推進体制が確立されていること など

なお、キャリア教育を進めていくためには、各学校が創意工夫をこらして、実践していくことが大切であるが、その際、自校の取組や校内研修の在り方等について「チェックシート」を作成し点検していくことも大切である。次の表はその「簡易チェックシート（例）」として参考とされたい。

《 学校におけるキャリア教育推進チェックシート（例） 》

項 目	チェック
学校教育目標にキャリア教育を位置付けている	
キャリア教育の全体計画を立てている	
校内にキャリア教育推進委員会等を設置している	
キャリア教育の校内研修を実施（計画）している	
教職員全体がキャリア教育について共通理解している	
小学校・中学校・高等学校でキャリア教育に関し連絡協議会を設置するなど連携を図っている	
職場体験、インターンシップ等を実施している	
職場体験、インターンシップ等の事前・事後指導を計画的に行っている	
各教科における指導も含めて、キャリア教育を教育活動全体で行っている	
学校だより、PTAだより等でキャリア教育の広報活動を行っている	
社会人講師等、地域の教育力を活用している	
ハローワーク等関係諸機関と連携している	
単独あるいは、学校評価等でキャリア教育の評価を行っている	
評価結果に基づき、指導等の改善を図っている	

（２）教員が行う評価

キャリア教育を進め、児童生徒一人一人の評価を行う場合、児童生徒のキャリア発達の速度や様相は個人差が大きく、また環境の影響も大きいこと、特定の時間帯で実施されるとは限らないこと、さらに、目標も個々の児童生徒の状況や学校・地域によって多様であることに留意しなければならない。また、指導と評価の一体化を進めるためにも、キャリア教育の視点を踏まえた授業、活動の一層の工夫・改善が求められる。

このようなことから、現状においては、個々の児童生徒に対するキャリア教育の評価については次のように考えられる。

各教科（科目）、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の目標やねらい、また、各教科（科目）等の評価の規準にキャリア教育の視点を盛り込むこと
進路指導の評価にキャリア教育の観点や内容を取り入れること

また、児童生徒の変化に視点を当てた場合、定量的評価だけではなく、担当教員が児

児童生の行動を観察したり、取り組んでいる時の児童生自身自身の感想など定性的な資料も大切である。このようなことから、評価には児童生が取り組んだ課題や、進路指導などで行った検査や調査、学業成績など、児童生の全資料を一括したポートフォリオが、キャリア教育を通しての児童生の変化や教員の取組の評価にも極めて有効な情報として活用できる。そこで、次に基本的な評価の観点について例示する。

基本的な評価の観点（例）

目標の設定について

- ・目標の設定は具体的で妥当であったか
- ・目標設定過程への各教員の参加度、理解度はどうか
- ・保護者などへの説明は適切であったか など

実践中の評価について

- ・児童生は積極的に取り組んでいるか、理解はどうか、予測した取組をしているか
- ・期待した変化や効果の兆しはあるか
- ・教員が適切な指導を行っているか
- ・児童生の感想はどうか など

評価の方法について

- ・評価のための計画は適切に立てられていたか
- ・評価方法やそのための資料は前もって用意されていたか、評価方法は妥当であったか
- ・教員、児童生の評価への理解は十分であったか など

「児童生の変化」の評価

- ・プログラム実施中の児童生の態度の変化
- ・プログラムの目標の達成状況（実施過程中、および終了時）
- ・特に顕著な児童生の行動・態度、課題 など

評価を受けての改善について

- ・今までの評価を教職員、保護者等で客観的に見直し、共通理解されているか
- ・評価を適切に次の改善策として生かしているか
- ・改善策の実行プログラム（アクションプラン等）が立てられているか など

なお、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」は、各学校において、児童生がどのような能力・態度をどの程度身に付けているか等について点検したり、評価したりする際の一つの参考として、活用することも考えられる。しかし、本来この枠組み（例）は、4つの能力を観点として児童生の発達を見ていく見取り図として作成されたことに留意しておく必要がある。したがって、現在行われている各学校の一つ一つの活動が、どのような能力の育成を目指したものなのかを明確にしたり、全体としてバランスのとれた取組となっているか、どの能力・態度の育成にかかわる取組が不足しているのか等について、点検・見直しを行ったりする際の参考として活用することが望まれる。

今後、キャリア教育についての評価をどのように進めていくかについては、文部科学省で実施しているキャリア教育推進地域事業等の実践研究等を参考にしつつ、研究・検討していくことが求められる。

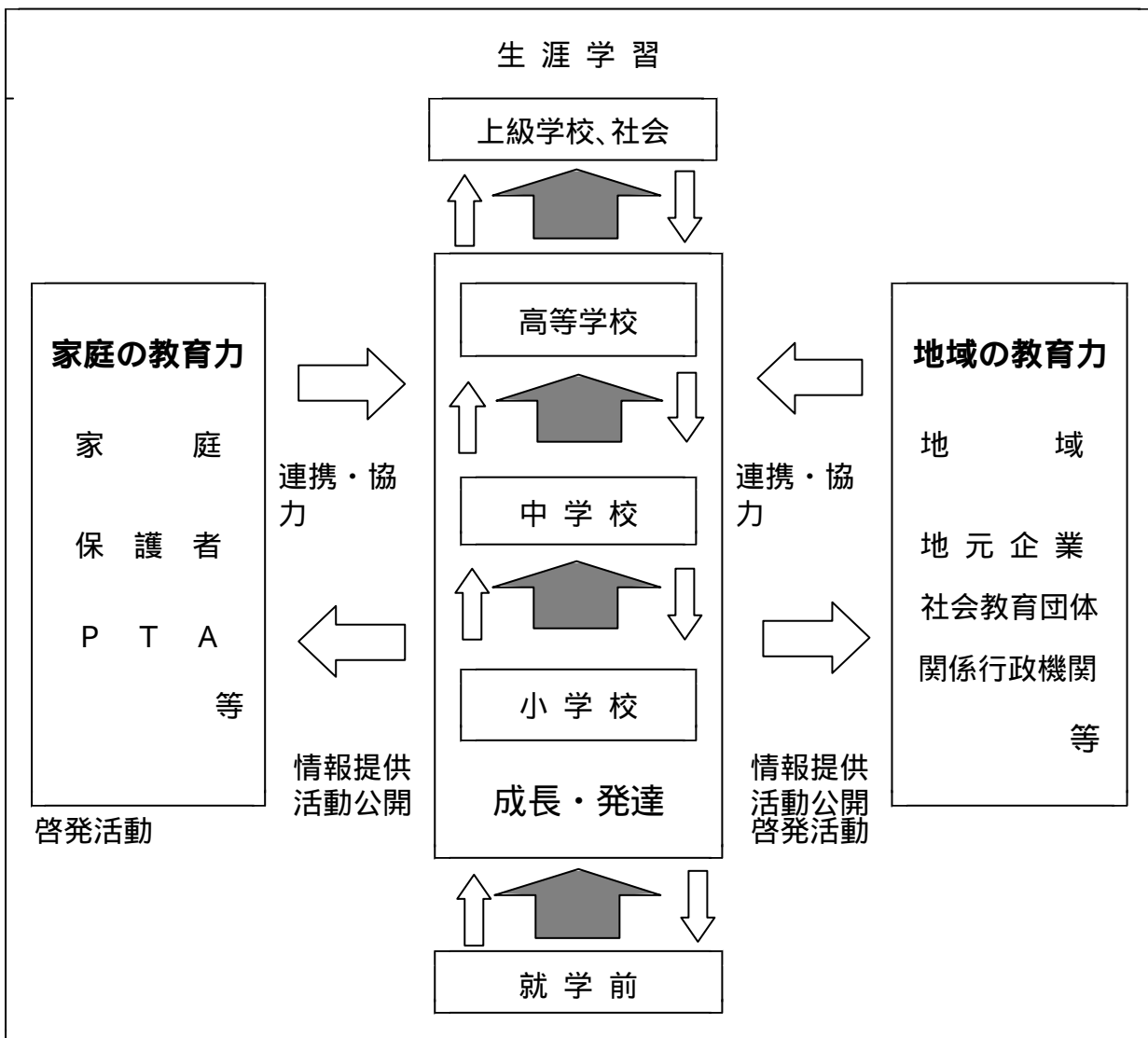
第3章 家庭、地域、関係諸機関との連携・協力

1 学校・家庭・地域との連携・協力の必要性（意義）

キャリア教育は個々人の生き方にかかわる教育であり、キャリアの形成には、一人一人の成長・発達のプロセスにおける様々な経験や人とのふれあいなどが総合的にかかわってくる。そのため、キャリア教育を推進するに当たっては、学校が児童生徒の生活時間の多くを占める家庭と積極的にかかわりを持ち、ともに連携・協力をして進めることが重要である。

また、産業構造の変化等について、事業所の担当者等から学んだり、情報交換したりするなど、地域や関係諸機関との連携・協力も必要となってくる。そして、それぞれの役割を認識しながらキャリア教育を推進することが重要である。

小学校・中学校・高等学校の連携と家庭・地域との連携



2 家庭・地域の役割

家庭は、子どもたちの成長・発達を支える重要な場であり、様々な職業生活の実際や仕事には困難もあるが大きなやりがいもあることを、有形無形のうちに感じ取らせることが重要である。同時に保護者が学校の取組を理解し、学校と一体となって子どもたち

の成長・発達を支えていくことが、今後ますます強く求められてくる。

家庭教育の在り方、働くことに対する保護者の考え方や態度は、子どもたちの人格形成や心身の発達に大きな影響を及ぼすものである。また、キャリア教育は、生活基盤である地域や周囲の大人、社会や産業等とのかかわり無しには考えることはできない。子どもたちは、家庭や地域での人間関係や生活体験を通して、社会性を身に付け、「生き方」の基礎を培っていくのである。

かつての子どもたちは、保護者の働く姿を否応なしに目にし、そこから多くのことを学んでいた。しかし、昨今、社会の変化が目まぐるしく、核家族化や価値観の多様化等で、家庭生活も変わってきている。家事の合理化、外部化により、子どもたちが家事などの仕事を果たす経験も少なくなり、親子の会話も少なくなっている。ましてや親の働く姿や祖母や祖父から引き継がれた仕事などに接する機会がなくなってきているのが現状である。

一方、地域は、本来、子どもたちが同年齢、異年齢の人たちと、自由に遊び、活動できる場のはずである。また、子どもたちが地域の中で、多様な人間関係を体験することができる場でもある。「子どもは地域の宝」ともいわれ、地域で子どもたちを育てていこうという機運が高まりつつある中で、大人も含め、生涯学習の観点からも、地域でキャリア教育を進めていくことが今求められている。

しかしながら、子どもたちにとって地域は、学校と家庭とを結ぶ単なる通学路の役割しか果たしていないとの指摘もある。今後は、家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、子どもたちの家庭での生活、地域での活動の在り方を考え、キャリア発達をはぐくむ連携システムを構築していく必要がある。

3 キャリア教育推進のための家庭・地域等との連携の在り方

キャリア教育を進めるに当たっては、学校と家庭、地域がパートナーシップを発揮して、互いにそれぞれの役割を自覚し、一体となった取組を進めることがますます重要となる。職場体験やインターンシップ等の体験活動をより円滑に実施し、キャリア教育を十全に展開するためには、家庭との連携のほか、地域や関係機関等との連携も必要不可欠である。学校外の教育資源を有効に活用し、子どもたちに望ましい勤労観、職業観をはぐくみ、将来に向けての主体的な進路の選択や決定を指導したり、支援したりできるよう共通理解を図ることが大切である。

さらには、産業構造や雇用形態、進路をめぐる環境の変化などについて、また、キャリアを形成していく方法等について専門的な知識や情報をもっている保護者、社会人、職業人など外部講師から直接学んだりする機会を持つことが大切である。

家庭や地域、特に事業所や関係諸機関等とのかかわり方をどのようにしたらよいかを、具体的に次に示す。

【 家庭・地域が学校と連携して協力できること 】

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| ・ しつけ、子どもへの接し方 | ・ 家庭における役割分担、家事分担 |
| ・ 働くことを通じての家族の会話 | ・ 職業人による講演会 |
| ・ 職場訪問、職場体験、インターンシップ | ・ 社会人講師による体験学習 |
| ・ 卒業生や地域の人々の体験談を聞く会 | |
| ・ 幼児、高齢者、障害のある人々とのふれあい体験 | |
| ・ 上級学校の教員による模擬授業、出前授業 など | |

【 学校が家庭・地域に向けて発信できること 】

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 学校だより、進路だより等による啓発・ 授業公開・ 家庭教育講演会・ 学級懇談会、地区懇談会・ キャリア教育講座、講演会 など | <ul style="list-style-type: none">・ 保護者会・ 行事公開・ 進路説明会・ 三者面談、進路相談 |
|--|---|

【 子どもたちが家庭、地域の中でできること 】

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 家庭における役割分担、家事分担・ 街中探検、社会科見学・ ボランティア活動・ 自治会や公民館の活動 | <ul style="list-style-type: none">・ 職場見学、職場体験、インターンシップ・ 保育体験、福祉体験・ お祭り等地域行事への参加 など |
|--|--|

これらの各活動を、それぞれの立場、役割を認識し、連携・協力して実施していくことが大切である。また、職場体験の発表会を外部にも公開し、地域の方々等も参加することによって、教員、児童生徒、保護者、地域の方々と授業や体験活動を共有することも大切である。そうすることで、お互いに意見や考えを出し合い、キャリア教育の理解に関して、相乗効果を得ることができる。これらのコーディネーターとしての役割を学校、地域が担うこともまた重要である。

4 職場体験・インターンシップの実施

地域の教育力を活用した体験活動として現在推進されているものに、職場体験、インターンシップなどがある。

キャリア教育を推進するためには、小学校・中学校・高等学校における児童生徒の発達段階に応じた系統的な体験活動として、職場体験、インターンシップなどはきわめて有効である。次の表は、小学校・中学校・高等学校で行われている働くことや、職業・進路にかかわる体験学習について、具体的な取組をまとめたものである。

職場体験、インターンシップ等の体験活動が普及するようになった背景には、体験がもたらす大きな教育効果に対する理解と認識が、学校関係者だけではなく家庭・保護者、地域、事業所等の関係者に広がったこと、様々な施策や協力体制が地域に整備されてきたことなどが考えられる。今後、さらに推進していくためには、受入事業所等のメリットという面でも理解を求め、相互の信頼関係を築いていくことが重要である。

また、内容のさらなる充実を図るためには、事前指導において、生徒に職場体験、インターンシップの意義をしっかりと理解させるとともに、職業調べ等と組み合わせたり、事後にまとめの話し合いや討論会、発表会等を計画したりするなど、周到的準備と計画のもとに実施することが大切である。

さらに、キャリア教育の視点から充実を図るためには、実施直前、直後の指導のみならず、入学から卒業までも見据えて、学校教育全体における体験活動の位置付け、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等との有機的な連携を図ったキャリア教育のプログラムの作成等を考えていく必要がある。

現在、中学校にあっては、5日間以上の職場体験の実施を全国的に推進しており、実施内容や実施期間の拡充や地域との連携など、一層の充実が求められている。

今後、キャリア教育を効果的に進めるためにも、学校はキャリア教育の意義を家庭や地域に幅広く発信するとともに、学校、家庭、地域、それぞれの場で子どもたちのキャリア発達が促されるよう、社会全体でキャリア教育を進めていくことが重要である。

表 小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達と職場体験等の関連（例）

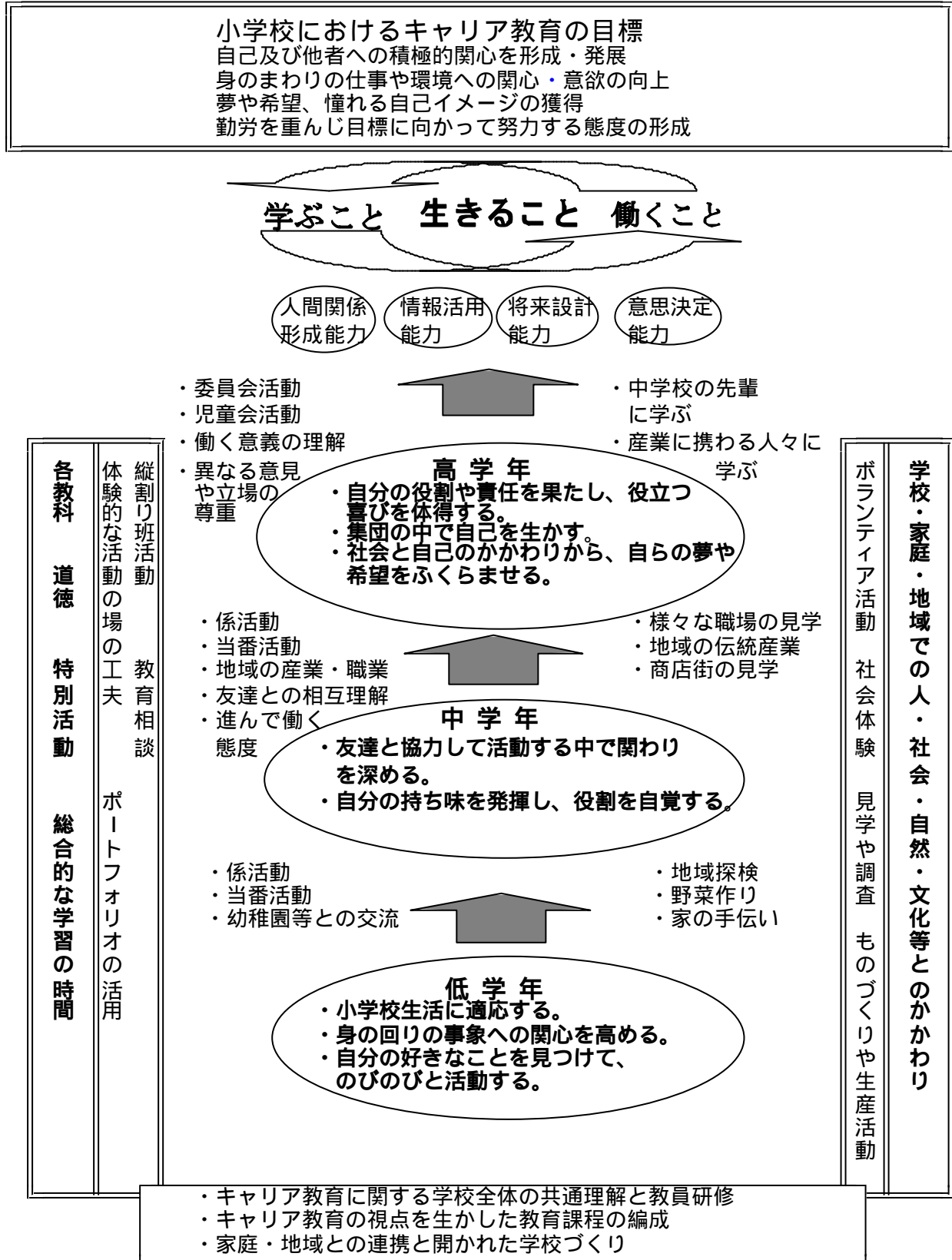
小学校	中学校	高等学校
< キャリア発達段階 >		
<p>進路の探索・選択にかかる 基盤形成の時期</p>	<p>現実的探索と暫定的選択の 時期</p>	<p>現実的探索・試行と社会的 移行準備の時期</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく勤労観、職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての勤労観、職業観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加
体験的活動（例）		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の探検 ・家族や身近な人の仕事調べ ・見学 ・インタビュー ・商店街での職場見学 ・中学校の体験入学 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や身近な人の職業聞き取り調査 ・連続した5日間の職場体験 ・子ども参観日（家族や身近な人の職場へ） ・職場の人と行動を共にするジョブシャドウイング ・上級学校の体験入学 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ（事業所、大学、行政、研究所等における就業体験） ・学校での学びと職場実習を組み合わせるデュアルシステム ・上級学校の体験授業 ・企業訪問・見学
児童生徒の感想から		
<ul style="list-style-type: none"> ・いっぱいおもしろいものを見て楽しかった。 ・いつも私たちをまもってくれてありがとう。 ・大きくなったら、私も看護師さんになりたいな。 ・お店で働いている人は、見ているよりずっとたいへんだな。 ・いろいろな仕事を見て、夢がまた増えた。 ・うちのお父さん、お母さんの仕事もたいへんだなと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の厳しさや楽しさを知り、働くことの大切さを感じた。 ・親やまわりの大人たちがとてもがんばって働いていることに感心した。 ・コミュニケーションの大切さを知った。 ・学校での勉強が大事だということがよくわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来なりたいと思っていた仕事だが、自分に向いていないと実感した。 ・学び続けることの大切さを知り、これからの進路決定に役立った。 ・企業努力の大切さと現実の厳しさを実感した。 ・部下に指示をだす場面をみて、部署の人間関係の大切さを感じた。

第4章 各学校段階におけるキャリア教育

1 小学校におけるキャリア教育

(1) 全体のイメージ例

次の図は、小学校段階でキャリア教育を実践していく、全体的なイメージを1つの例として図式化したものである。



(2) 小学校段階におけるキャリア発達の特徴

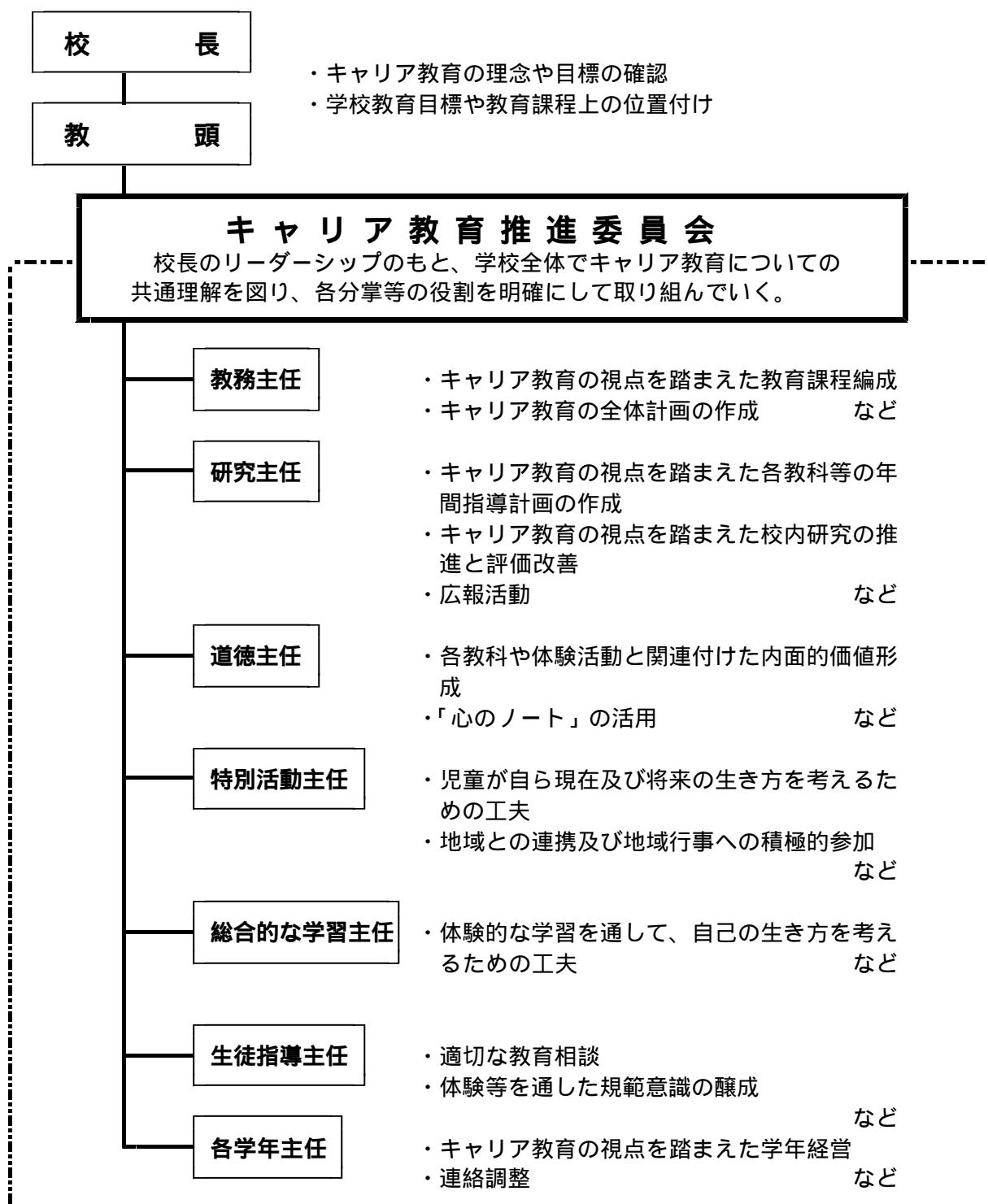
低 学 年	中 学 年	高 学 年
学校への適応	友達づくり 集団の結束力づくり	集団の中での役割の自覚 中学校への心の準備
<ul style="list-style-type: none"> あいさつや返事をする。 友達と仲良く遊び、助け合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよいところを見つけるとともに、友達のよいところを認め、励まし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮する。 異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。
<ul style="list-style-type: none"> 身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。 係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな職業や生き方が分かる。 係や当番活動に積極的にかかわり、働くことの楽しさが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。 自分に必要な情報を探す。 施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦労が分かる。 学んだり体験したことと、生活や職業との関連を考える。
<ul style="list-style-type: none"> 家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。 作業の準備や片づけをする。 決められた時間やきまりを守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの役割や役割分担の必要性が分かる。 日常の生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。 将来の夢や希望を持つ。 計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 仕事における役割の関連性や変化に気付く。 憧れとする職業をもち、今しなければならぬことを考える。
<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなもの、大切なものを持つ。 自分のことは自分で行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の仕事に対して責任を持ち、見つけた課題を自分の力で解決しようとする。 将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。

キャリア教育は、全教育活動の中で6年間を通して意図的・継続的に推進していくものである。特に小学校は、低学年、中学年、高学年と成長が著しく、社会的自立・職業的自立に向けて、その基盤を形成する重要な時期である。そのため、児童一人一人の発達に応じて、人、社会、自然、文化とかかわる体験活動を、身近なところから徐々に広げ、ていねいに設定していくことが大切である。また、係活動や委員会活動、清掃活動、勤労生産的な活動等を通して、自らの役割を果たそうとする意欲や態度をはぐくんでいくことが大切である。

そのためにも、教職員や保護者、地域の大人には「小学校は、勤労観、職業観の基盤形成の大切な時期であるということ」を常に意識してかかわっていくこと、「一人一人の子ども心に寄り添い、理解に努めること」「共に夢を持って生きていくこと」などの姿勢が求められている。

(3) 組織づくり

キャリア教育を全教育活動を通して推進するためには、「キャリア教育推進委員会」等を組織し、教育活動全体の中で効果的に機能するよう位置付けることが望まれる。



* キャリア教育は、全教育活動を通して推進していくものである。そのためには、すべての教員が方針や内容を十分に理解し、情報交換を密にして各分掌間の意思疎通を図っていく必要がある。

* キャリア教育を推進していく中で、教育相談機能を充実させ、一人一人の児童理解と支援方法について共通理解を図ることが大切である。

(4) キャリア教育を進めるための留意事項

全教育活動における組織的・計画的な取組

キャリア教育は、必ずしも新しい教育内容を導入しようとするものではない。例えば、学習指導要領の総則においては「各教科の指導に当たっては、児童が学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会を設けるなど工夫すること」とあるように、教育活動の領域・単元の1つではなく、教育活動全体に働きかけていくという見方が大切である。小学校では、既存の教育活動のなかにキャリア教育と関連する内容が数多くある。それらをキャリア教育の視点でとらえ直すことで、それぞれの活動の関連が明確になる。学級担任がすべての教科を見渡しやすいという小学校の利点を生かし、キャリア教育の視点を意識して取り組むことが大切である。また、教員自身が研修を通してキャリア教育への理解を深めることが重要である。

学校や家庭での「役割」や「役割を果たそうとする意欲」の醸成

小学校段階では、遊びや家での手伝い、学校での係活動、清掃活動、勤労生産的な活動や地域での活動等の中で、自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育てていくことが重要である。日常的な様々な「役割」遂行の経験を積み重ねながら、内面的な価値形成に深くかかわる道徳の時間との関連を図るなど、「自己の生き方」を考えることができるようにしていくことが望まれる。

幼稚園や保育所、中学校との連携

小学校でのキャリア教育を充実させるためにも幼稚園や保育所、中学校との連携を図ることは重要である。福祉体験や交流活動、授業参観などの機会をとらえ、キャリア教育についての理解を図ったり、「中学校ってどんなところ？」(次ページ)などのように、高学年向けのガイダンスで中学校への理解を深めたり、学校見学や出前授業を連携して企画するなど、児童生徒や教職員が交流する場を設けることが大切である。

家庭や地域との連携

キャリア教育について保護者の理解を得ることは非常に重要である。授業参観や保護者会、学校だよりなどを通して、学校のキャリア教育の方針や指導内容について理解を深めるよう工夫するとともに、キャリア教育の支援者として共に活動する場を提供したいものである。そのためにも、教員は、社会、自然、文化とのかかわりが豊かにもてるように、幼稚園、保育所、中学校、福祉施設、公共機関、農園、地域の方々等とのネットワークづくりに努めることが大切である。

児童理解を目指した個別への対応

教員は、児童一人一人の理解に努め、人間関係を築くなかでキャリア発達の個人差を認識し、個々の児童に応じた指導に当たることが望まれる。小学校は6年間であるということをメリットとして生かし、低・中・高学年と連続した6年間の育ちを見通して、担任同士の引き継ぎや情報交換を密にしていくことが望まれる。6年間を通して児童の成長の過程を見つめながら、一人一人の理解を図ることが重要である。

(5) 実践例「中学校ってどんなところ？」(5年生特別活動)

1 題材のねらい

中学校調べを通して、中学校についての知識を得たり、理解したりできるようにする。先輩たちへのインタビューをもとに、中学校生活について理解できるようにする。それぞれの中学校に入学した先輩たちからの手紙をもとに、生き生きと中学校生活を送っている先輩たちの様子を知り、中学校生活に夢や希望をえがけるようにする。中学校入学に向けて、今自分がすべきことを考えたり、中学生になった自分の姿を前向きに想像してえがいたりすることができるようにする。

2 本時の展開

	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等
導 入	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">中学生になった自分の姿を想像してえがき、中学校生活に夢や希望をもつことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師自身の中学生時代の話聞き、中学校生活への興味と学習課題をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入なので長い話は避け、子供たちが中学校生活に対して興味をもてるような話をする。 	教師の中 学校時代 の卒業ア ルバム等
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 各自が実施した中学生へのインタビュー結果を発表し合い、小学校生活と中学校生活の違いを理解する。 それぞれの中学校に入学した前年度卒業生の手紙から、感想を出しあう。 授業に参加してくれた中学校の先生から話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> なるべく多くの子供たちに発表の機会を与え、インタビュー項目ごとにわかりやすく板書していくことによって、小学校生活と中学校生活の違いが理解できるようにしていく。 アンケート結果から中学校生活に関する情報を発表できるようにする。 【情報活用能力】 手紙を読んで、初めて知ったことやイメージが変わったこと、気に入ったところなどに視点をあてて、感想を出し合うことができるようにする。 中学校生活についての話をしてもらったり、質問に答えてもらったりする。 関心のある情報について質問することができるようにする。 【情報活用能力】 	卒業生か らの手紙 をプリン トしたも の
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 中学校入学に向けてがんばりたいことと、中学校での自分の姿のイメージをまとめ、発表し合って意見交換する。 学習をふりかえり、自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの項目にしたがってイメージをまとめさせていく。 友達のイメージを尊重し、互いにアドバイスし合えるように投げかける。 【人間関係形成能力】 友達の考えを聞いたり、意見交換したりすることを通して、これからの自分の生活に見通しをもつことの大切さを理解することができるようにする。 【将来設計能力】 自己評価欄を使い、視点を明確にして評価できるようにする。 	ワークシ ート ワークシ ートの自 己評価欄

<ワークシート例>

中学生になった自分の姿を想像してえがいてみよう

氏名()

1 中学校で学んできたこと、中学生のインタビューでわかったことをまとめてみよう

2 中学生になった自分の姿を想像してえがいてみよう

3 中学校入学に向けて、小学校生活でこれからがんばりたいことをまとめてみよう

4 学習のふりかえりをしよう

中学校生活について知ることができましたか

(よくできた・少しできた・あまりできなかった・ぜんぜんできなかった)

これからがんばりたいことをまとめられましたか

(よくできた・少しできた・あまりできなかった・ぜんぜんできなかった)

中学生になった自分の姿をえがけましたか

(よくできた・少しできた・あまりできなかった・ぜんぜんできなかった)

調べたことをがんばって発表したり、他の意見を参考にして考えをまとめたりすることができましたか

(よくできた・少しできた・あまりできなかった・ぜんぜんできなかった)

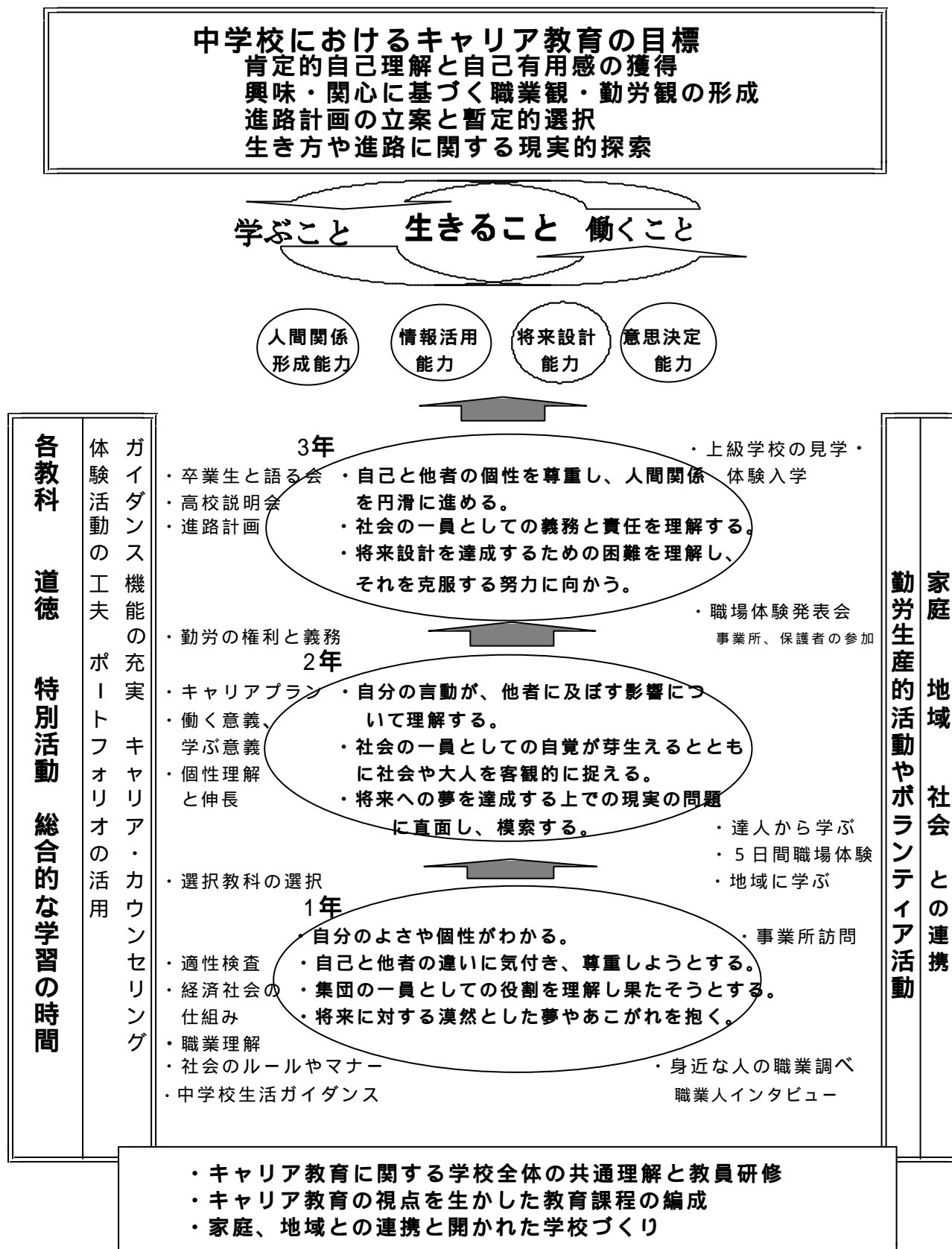
友達の考えをしっかりと聞き、応援するような意見が言えましたか

(よくできた・少しできた・あまりできなかった・ぜんぜんできなかった)

2 中学校におけるキャリア教育

(1) 全体のイメージ例

次の図は、中学校段階でキャリア教育を実践していく、全体的なイメージを1つの例として図式化したものである。



(2) 中学校段階におけるキャリア発達の特徴

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さや個性が分かる。 ・自己と他者の違いに気付き、尊重しようとする反面、自己否定などの悩みが生じる。 ・集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。 ・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。 ・学習の過程を振り返り、次の選択場面に生かそうとする。 ・将来に対する漠然とした夢や憧れを抱いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解する。 ・社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的に捉えるようになる。 ・体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 ・よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ・将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進めようとする。 ・社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。 ・係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かそうとする。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。 ・将来設計を達成するための困難を理解しそれを克服するための努力に向かう。

児童期から青年前期にさしかかる中学校3年間での心身の発達は著しく、多様な面での成長や変化をみることができる。生徒は自己の個性、能力、適性の理解を深めながら、新たに将来への道を歩み始める。また、興味・関心が自己から他者、そして社会認識へと広がる途上にあり、自己と他者や社会との適切な関係を構築していく力を身に付けていく時期である。

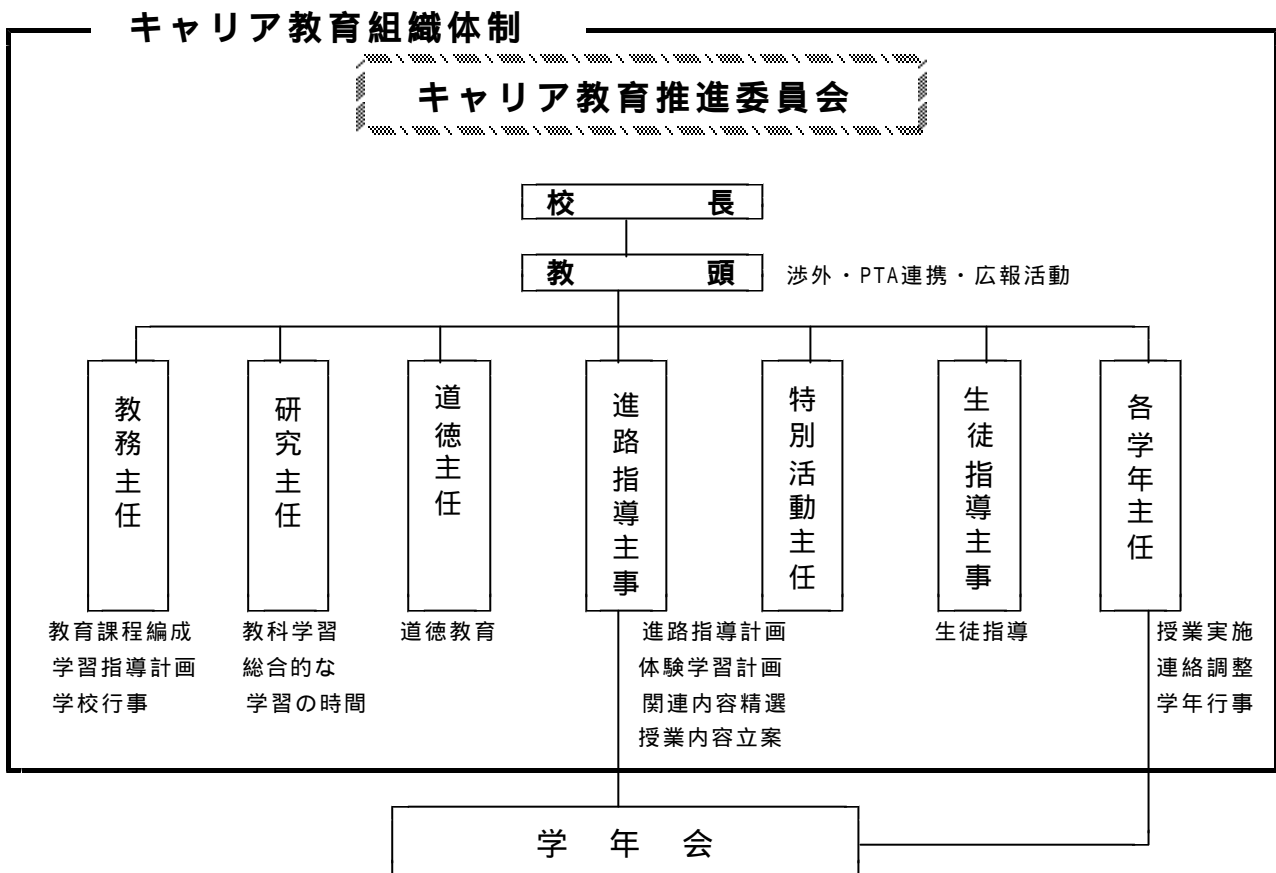
中学校では、新しい集団の中で、教科担任制をはじめとして、小学校とは大きく異なる学校生活が始まる。特に中学1年時には、初めて取り組む教科や定期考査、部活動など、生徒は急激な環境の変化の中に身をおくことになる。また、学校行事や生徒会活動などにおいても、係や委員会など責任を持って一定の役割を担う体験の機会が増し、それに伴って人間関係の輪が拡大する。そのため、時に集団への不適應やコミュニケーションにかかる苦手意識等の悩みが多くなる時期である。

一方、職業に対する知識と勤労の意義についての計画的、系統的な学習や体験活動などにより、発達段階に応じた望ましい勤労観、職業観が培われなければならない時期である。

生徒は、自己の将来設計に基づく具体的な進路選択の時期を迎え、高等学校入学者選抜をはじめとする具体的な進路選択に直面し、自らの積極的な情報収集と進路先に対する検討とともに、主体的、積極的な意思決定を迫られる。いわば人生における重要な選択の時を迎えるのである。

(3) 組織づくり

図は、学校長が委員長となり、進路指導主事を中心として、各校務分掌部会で計画、立案された内容が、各学年の実践へと繋がるよう工夫した組織の例である。「キャリア教育推進委員会」等は、学校の教育活動全体が、効果的に機能するよう位置付けられることが望まれる。



(4) キャリア教育を進めるための留意事項

生徒の入学時の適応への配慮

不安と期待をもって入学してくる生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう、ガイダンスの内容は十分に検討した上で実施することが大切である。また、個々の生徒の行動や人間関係の観察、人間関係づくりのための活動、声かけ、面談等を通して、中学校生活に適応できる環境づくりに努めることが重要である。

全教育活動における取組

学校の教育活動全般において、キャリア教育がどのように教科等の学習や活動とかがわり、位置付けられるかを示すのが全体的な指導計画である。キャリア教育に関する学習や活動の内容は、中学校の3年間を通した計画的、系統的なものとなるよう、教育課程を横断的視点で捉え、キャリア教育と関連する各教科・領域等相互の接点を考慮し計画することが求められる。とりわけ、学校行事や総合的な学習の時間における体験活動、道徳の

時間等は、生徒の内面的価値形成やキャリア発達を促す上での有効な時間となる。学校は、それらキャリア教育に関わる内容に配慮した年間指導計画や授業計画を工夫することが大切である。

職場体験の位置付け

職場体験等の啓発的体験学習は、今やほとんどの中学校で実施されており、生徒のキャリア発達を促す上で極めて有効である。しかし、その実施方法や内容等についての課題として、例えば、職場体験は、イベント的要素が色濃く、学年行事として単発的に完結してしまうことなどが指摘されている。キャリア教育では、それが3年間の系統的な計画と意図的な事前事後の指導のもとで実施されることが大切である。そのためには、望ましい勤労観、職業観の内面的価値形成を意図した学習の計画と実施、それらが効果的に生きてはたらくよう体験活動を工夫することが重要である。さらに中学校での体験が、上級学校におけるインターンシップや将来への就業意識向上につながることを意図した教育活動となるよう高校等との連携が求められる。

キャリア・カウンセリングの充実

教員は、生徒一人一人の理解に努め、相互の人間関係を築く中でキャリア発達における個人差を認識し、個々の生徒に応じた指導にあたる必要がある。そのためには、定期的な面談やキャリア・カウンセリングの機会を設け、個々の生徒の望ましいキャリア発達を支援することが大切である。その際、学校の年間指導計画に教育相談の機会を複数配置するなど、学校全体の共通理解のもとで取り組むことが望まれる。また、特に課題を抱える生徒については、家庭やカウンセラーとの連携を密にするなど、かかわりを持つ他者との協力体制を整え対応する必要がある。

卒業後の進路の円滑な移行への支援

中学校での進路選択は、卒業後の進路先の的確な情報収集のもとに、将来を見通して、自己の個性・能力・適性に対する十分な理解と検討の上に、自らが納得のいくものにするのが望ましい。そのため、進路情報の提供、体験入学への支援、三者面談等の活動を含む教員の適切な指導・援助が求められる。特に、特別な教育支援を必要とする生徒の卒業後の進路については、保護者との連携を密にし十分な配慮のもとに対応する必要がある。

(5) 実践例「人は何のために働くのか」(道徳)

1 題材のねらい

勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努めようとする心情を育てる。

主題名 勤労の尊さと意義 内容項目 4 - (5)

資料名 「在校生へのメッセージ」 文部省 道徳教育推進指導資料(指導の手引き)5 真理や学ぶことを愛する心を育てる

補助資料 「心のノート」文部科学省

2 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	資料等
	人は、何のために働くのか		
導入	<ul style="list-style-type: none"> 看護師についてのイメージや知っていることについて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師の写真などを提示する。 自由に意見が発表できる雰囲気をつくる。 一人一人の意見を受容的態度で取り上げ、板書する。 よいイメージ、悪いイメージを対比できるように整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師が働く写真の拡大コピーを数枚用意しておく。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 資料を聞く。 資料の内容を把握する。 主人公の気持ちの変化について考える。 看護師の仕事の厳しさについて考える。 看護師の仕事のやりがいについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を範読する。 資料のあらすじが把握できるように板書の構造化に努める。 主人公の心情の変化にそった場面絵を数枚提示する。 ワークシートを活用しながら、自分なりの考えを書くよう促す。 【情報活用能力】 机間指導しながら助言する。 看護師の仕事の厳しさにくじけそうになる主人公の気持ちに共感できるようにする。 仕事には、辛いことや苦しいことがあることに気付くようにする。 仕事には意義があることに気付いた主人公の考えを理解させる。 主人公が、辛い看護師の仕事の中から人や社会の役に立っているという喜びを見いだすことに気付くようにする。 仕事をすることによって味わうことのできる幸福について知らせる。 【将来設計能力】 	<ul style="list-style-type: none"> 場面絵を用意しておく。 ワークシート
終末	<ul style="list-style-type: none"> 「心のノート」P98,99を読む。 P101「私は「働く」ことをこんなふうに考える。」に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導の後、数名に発表させる。 友達のいろいろな意見から、自己の考えを深めさせる。 人は何のために働くのかについて、自分なりの考えをもたせる。 【意思決定能力】 	<ul style="list-style-type: none"> 心のノート

<ワークシート例>

在校生へのメッセージ

組 番 氏名 _____

- 1 看護師になってよかったかどうか疑問に思いながら、主人公はどんなことを考えていたでしょう。

- 2 「おまえは、看護師のくせにやさしくないなあ。」と言われた主人公は、どんなことを思ったでしょう。

~~~~~

- 3 「わたしが、看護師だから味わえること。」とは、どんなことだと思いますか。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----

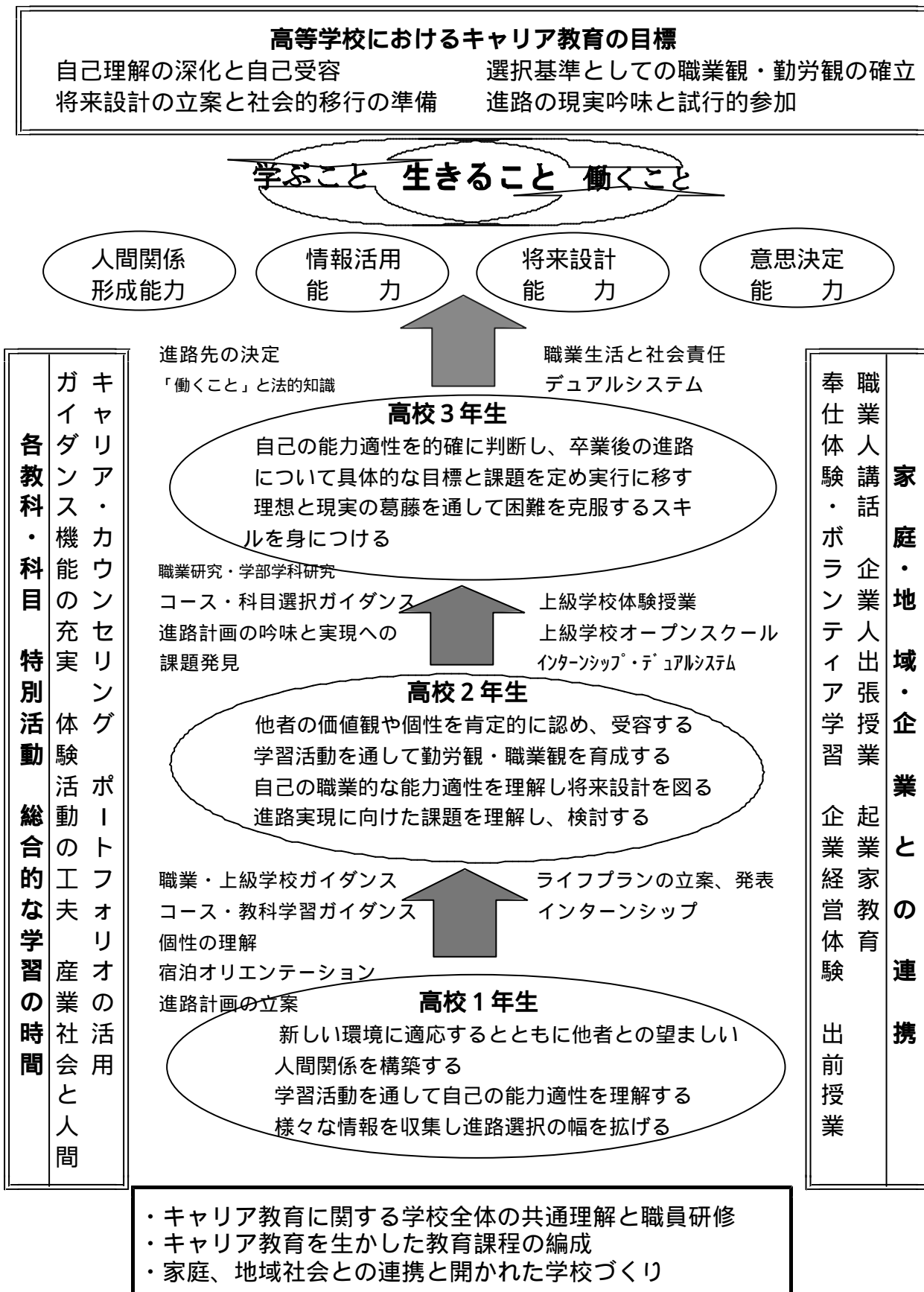
- 4 「人は何のために働く」のだと考えますか。学習を通して感じたことをまとめよう。

-----  
-----  
-----  
-----


### 3 高等学校におけるキャリア教育

#### (1) 全体のイメージ例

次の図は、高等学校段階でキャリア教育を実践していく、全体的なイメージを1つの例として図式化したものである。



## (2) 高校段階におけるキャリア発達の特徴

| 入学                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                      | 卒業 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する</li> <li>・新たな環境の中で自らの役割を自覚し、積極的に役割を果たす</li> <li>・学習活動を通して自らの勤労観、職業観について価値観形成を図る</li> <li>・様々な情報を収集し、それに基づいて自分の将来について暫定的に決定する</li> <li>・進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、検討する</li> <li>・将来設計を立案し、今取り組むべき学習や活動を理解し実行に移す</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の価値観や個性を理解し、自分との差異を認めつつ受容する</li> <li>・卒業後の進路について多面的多角的に情報を集め、検討する</li> <li>・自分の能力・適性を的確に判断し、自らの将来設計に基づいて、高校卒業後の進路について決定する</li> <li>・進路実現のために今取り組むべき課題は何かを考え、実行に移す</li> <li>・理想と現実との葛藤や経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身に付ける</li> </ul> |    |

高校生ともなると、小学校、中学校で経験してきた様々な学習や体験の上に、また新たな学習や体験を積み重ね、自らの能力・適性を客観的に吟味し、今まで以上に現実的かつ具体的な将来への展望をえがく。一般的に、この時期は青年期中期に位置しており、将来の社会での生活に移行していく準備をすることが課題である。中学生の時期よりも自分自身に対する意識が強まり、自分はどのような性格であるのか、自分にはどのような能力や適性があるのかを考える。自己と他者との違いに気づき、客観的に自分自身を受け入れ、自らの価値観を明確にして、様々なアドバイスを受容しながら進路を決定していく。今まで以上に具体的・実際的選択が求められるだけに、生徒にとっては不安感や焦燥感を持ちやすい時期でもある。

現代の高校生は、身体的には早熟傾向があるにもかかわらず、精神的・社会的な成熟が遅れ、社会生活に不可欠な一般常識や挨拶などの基本的な生活習慣、さらに人間関係形成能力等を十分に身に付けていない生徒が少なくない。また、自らの将来に対して肯定的に考えることができず、目的意識を持って意欲的に生活を送ることができない生徒も見受けられる。このことは、「なぜ学ぶのか」そして「なぜ学校に通うのか」といった高校での学習の意味を理解できず、長期欠席などの様々な問題を抱える

生徒や、卒業時において自らの進路を主体的に決定できない生徒の事例などに顕著に現れている。その意味においても高等学校におけるキャリア教育の必要性は高く、その実践に当たっては、まず高校生活への適応を十分に援助し、学ぶことの楽しさを学習活動を通じて味わうことができるようにすることがキャリア教育の最重要課題である。さらに、インターンシップや奉仕体験などの種々の体験的な学習を通して働くことへの関心を高めていくことが、将来への目的意識を培う基盤となると考えられる。高等学校卒業後の進路は、中学校の時の進路選択に比べ、選択肢は多様であり、しかもその選択のプロセスがその後の生き方に大きくかかわっていく。この選択する行為は本来、自己の興味・関心、能力・適性、価値観を十分に吟味しつつ、様々な進路情報を活用しながら、自分の意志と責任で、行うべきものである。この選択に関わる一連のプロセスは、生徒にとって今後の人生において幾度も繰り返される様々な選択の基礎となる経験である。高等学校におけるキャリア教育は、生徒のキャリア発達を支援し、望ましい勤労観、職業観を育成しながら、多様な選択肢から自己の意志と責任において進路を主体的に選択することができるよう援助していくことが最大の目標となる。

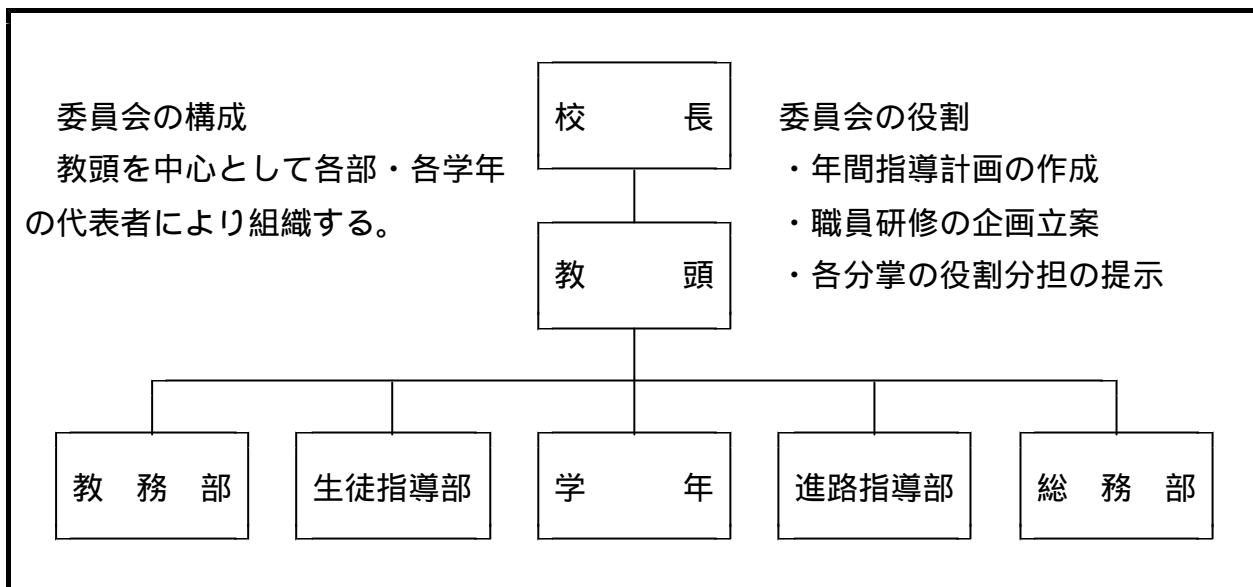
### (3) 組織づくり

キャリア教育を推進するためには校内組織を有機的に結びつける方策を考える必要がある。そのためには「キャリア教育推進委員会」等の委員会を組織し、委員会が中心となって、学校教育目標を十分に踏まえ推進していくことが重要である。

生徒と直接的にかかわるのは学年・担任ではあるが、委員会は適切なキャリア教育が展開できるよう、様々な機会をとらえて、適宜効果的な支援を加えられる組織として機能できるようにすることが重要である。

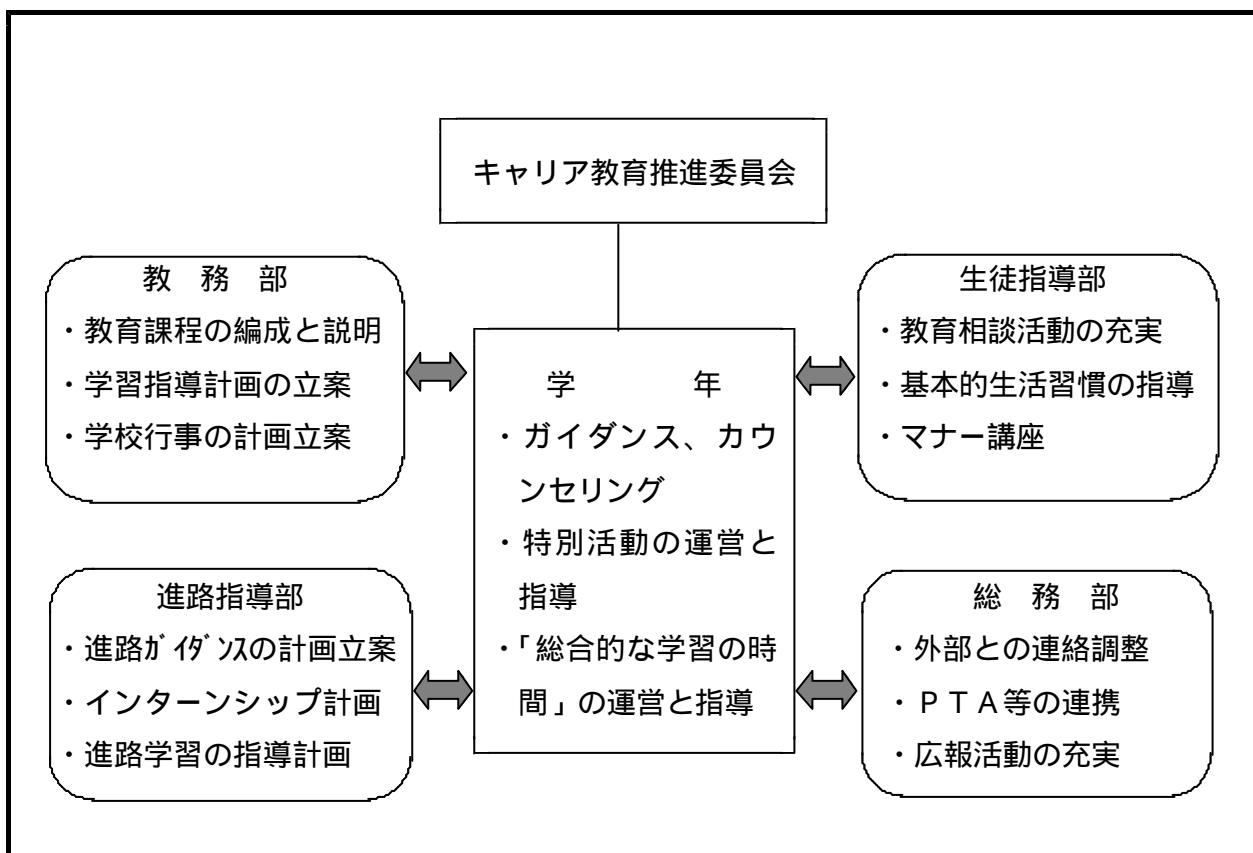
図で示すと、次のような体制が考えられる。

## 「キャリア教育推進委員会」組織図（例）



### 実施体制

#### 実施計画における実施体制



#### (4) キャリア教育を進めるための留意事項

##### 中学校との接続に対する配慮

小学校、中学校でどのようなキャリア教育が展開されているかを地域交流や連携を通して理解することが必要である。高校の場合、複数の中学校から生徒が入学してくるため、学習歴が多種多様であることから、高校における新たな学習を展開するためには、生徒の実態を掌握することが不可欠である。さらに学習内容が重複する場合でも、キャリア発達の段階が異なり、身に付ける知識の深さや体験する内容も異なっているので、発達の視点に立って学習をとらえる必要がある。一方、同じ内容が繰り返されることで生徒が学習意欲を低下させるおそれもあるので、見方、考え方は中学時代と高校では異なることを伝えるとともに教材等の工夫が大切である。

##### 高度専門職業人への対応

高度で専門的な職業能力を有する人材の養成が求められる中、将来、スペシャリストとして活躍するための基本的な能力・態度を身に付けることもキャリア教育に期待されている。近年の科学技術の進展や急速な技術革新、社会経済の急激な変化と多様化、複雑化、高度化、グローバル化等を受け、社会や企業から評価される付加価値を備えた人材を育成するための環境整備が進んでいる。そのような社会では、自ら考え、自己変革に励む態度を身に付けることが欠かせず、そのためには、現実の社会に触れたり、将来の職業生活を想像したりして、自己の個性や特徴をとらえ、伸長させようとする意識を持たせるとともに、将来のスペシャリストとしての基礎的・基本的な知識・技術を養うことが大切である。

##### 上級学校への接続に対する配慮

「学ぶ」楽しさや意義を理解し、「もっと学びたい」意欲を培うこともキャリア教育に期待される一面でもある。これによって、生徒は自分の得意分野や能力・適性等に気づき、自分の在り方を発見する。この「気づき」と「発見」が、上級学校への進学意欲や生涯学習の重要性を理解することに結びついていく。上級学校に進学した後も、意欲的に学習する態度・態度を身に付けさせるために、キャリア教育を教科・科目や総合的な学習の時間等における学習活動にあっても、意図的、継続的に展開する必要がある。また、近年、大学でも、従来の就職指導を入学当初からのキャリア支援に切り替える学校も増えており、高等学校において学習したキャリア教育が進学先でも継続して展開されることが期待される。このため、上級学校において、どのようなキャリア教育が行われているのか関心を持つ必要がある。

##### キャリア・カウンセリングの実施

高校1年生もしくは各学年の最初の時期に、生徒は高校での新生活が始まった不安感を抱えている。その心の不安定さを払拭し、学校や学級への帰属意識を培うための指導を、キャリア・カウンセリングの視点から、生徒を支援していくことが重要である。高校生になると、自己をより客観的に理解できるようになるとともに、社会情勢や将来設計の問題、職業生活に対する関心も高まってくることから、生徒の将来について生徒と教員が一緒に考えていくカウンセリングが必要になってくる。また、自分の生き方や在り方に悩む時期でもあり、精神的な支援・助言も欠かせない。そのためには、個性の多面的な理解と多様な価値観の受容に留意し、多くの進路情報を活用した相談活動を、年間に複数回設定して継続的に実施することが望ましい。



(5) 実践例「日常と経験」(国語「国語総合」)

1 題材のねらい

高校生の時期は、人生をいかに生きるべきか、人はなぜ生きているのか、自己の価値観形成に葛藤する時期である。その材料として国語の教材では様々な文章が取り上げられる。その中で、勤労観、職業観をはぐくむために、仕事や労働を主題とした文章を読み、考え、自分の考えをまとめる過程で、これからの人生の大部分を占めるであろう職業生活について考えさせる。

文章を読む(労働に関する評論、職業人が主人公の小説等)

例:「鉄塔に登る男」(沢木耕太郎)「働くということ」(黒井千次)

「鉄を削る」(小関智弘)「スペシャリストになりたまえ」(盛田昭夫)

「鉄道員」(浅田次郎)「山の郵便配達」(膨見明次木康訳) \*敬称略

心情を理解しワークシート「働くことの価値」を整理する。

2 本時の展開(例「鉄塔に登る男」(沢木耕太郎))

|     | 学習内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入  | <p>「人は何のために働くのか」「職業生活はどんな意味を持っているのか」、主人公の職業生活に対する心情と姿勢を読み取り、働くことの価値を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の復習と本時の内容の説明</li> </ul>                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 展開  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配布する。</li> <li>ワークシート1の「大変なことになってしまう」の内容整理</li> <li>ワークシート1の「命綱を付けない理由」「私の登り方」まとめ</li> <li>ワークシート1の「後継者難の理由」まとめ</li> <li>ワークシート1の「これからも登り続ける理由」まとめ</li> <li>ワークシートの2の男の職業意識についてまとめ</li> <li>ワークシートの2の記入</li> <li>発表</li> <li>ワークシートの2の単語の分類。</li> <li>ワークシートの2の自分の優先順位を文章化する仕事に関する9つの価値観を紹介する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>一つの仕事が全体に影響することを考えさせる。</li> <li>男が仕事の手法について揺るぎない自信を持っていることに気付くようにする。</li> <li>男が自分なりの登り方を確立するまでの年月について想起させる。</li> </ul> <p>【情報活用能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>労働条件と自分の将来の職業選択について考えさせる。</li> </ul> <p>【将来設計能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>危険な仕事にもかかわらず、管理職になっても登り続ける男の「仕事のやりがい」について考えさせる。</li> </ul> <p>【意思決定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的に多様に考えさせる。</li> </ul> <p>【将来設計能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導をして傾向を把握する。</li> <li>思いつく限り発表するように促す。</li> <li>生徒が発表した単語を板書する。次の分類作業のために同類のものは近くに寄せて書く。</li> <li>板書されている単語を3つのグループに分けてくくる。</li> </ul> <p>【情報活用能力】【将来設計能力】</p> |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> <li>本時をまとめる。個人にとっての「働くこと」の意味は?</li> <li>次回の予告</li> <li>「聞き書きワークシート」配布</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                     | <p>どんな仕事にも働く喜び、感動の時はあるものです。この教材の発展として、今回は聞き書き作文「私の仕事、この感動の一場面」を書きます。次の時間までに、「聞き書きワークシート」に身近な人から材料を集めてきてください。職業人インタビューの時のものを使ってもかまいません。</p> <p>【情報活用能力】【将来設計能力】</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

1 文章を読んでまとめよう。

|                                         |
|-----------------------------------------|
| 「万が一にもトラブルが発生したら大変なことになってしまう」の内容を整理しよう。 |
| 男が命綱を付けないのはなぜだろう？男が確立した「私の登り方」を整理しよう。   |
| 「後継者難」の理由について考えよう。                      |
| 男が「それでも登り続ける」理由は何だろう？                   |

2 この男の職業意識について考えてみよう。

|                                                                                                                                    |            |            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------|
| この男は自分の職業をどのようにとらえているのだろう。                                                                                                         |            |            |
| 人は何のために働くのだろう？（例えばこの男は？保護者の方は？）単語でたくさんあげてみよう。                                                                                      |            |            |
| 前問の単語を職業の三要素に分類してみよう。                                                                                                              |            |            |
| お金のため（経済性）                                                                                                                         | 自分のため（個人性） | 社会のため（社会性） |
| 職業生活を送る上で、仕事に関する9つの価値のうち、あなたは何を重視したいですか？優先順を考えて「私の職業生活はこうありたい」という題で文章にまとめてみましょう。<br>[仕事に関する9つの価値] 時間 視野 お金 人間関係 地位 安定 気持ち 家族 自分らしさ |            |            |

## 第5章 キャリア教育の進め方の例

### 1 発達段階を重視した取組例

#### (1) キャリア発達課題と各学校段階で育成すべき能力・態度との関連性の理解

キャリア教育は、学校教育の実状を踏まえるとともに、一人一人のキャリアが多様な側面を持ちながら段階を追って発達していくことを改めて深く認識し、子どもたちがそれぞれの発達段階に応じ、自己と働くこととを適切に関係付け、各発達段階における発達課題を達成できるよう取組を展開するところに特質がある。そして、これらのキャリア発達を促進するために、必要とされる諸能力を意図的、継続的に育成していく必要がある。

各学校がキャリア教育に取り組むに当たっては、児童生徒が、小学校・中学校・高等学校の各発達段階にあって、どのようなキャリア発達上の課題を抱えているか、それを達成するために、どのような能力・態度を育成することが期待されているのかを理解するとともに、発達課題と育成すべき能力・態度とがどのように関連しているかを理解する必要がある。

もとより、勤労観、職業観の育成は、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、学校の全教育活動を通して行われるものである。このことを前提とし、国立教育政策研究所生徒指導研究センターによる「職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み(例)」(第2章参照)は、小学校・中学校・高等学校における取組の参考例として、計画的、組織的かつ系統的に推進されるよう研究開発したものである。

「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」から各学校がキャリア教育にどのように取り組んでいくかについての具体的な方法には、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の「4つの能力」の育成などを通して、児童生徒がそれぞれの発達段階におけるキャリア発達課題を達成することができるよう取り組むことが考えられる。

#### (2) 「学習プログラムの枠組み」の作成 - 育成する能力・態度の焦点化 -

各学校がキャリア教育を推進するためには、児童生徒のキャリア発達課題及びその達成のために育成すべき能力・態度の理解と、キャリア教育の推進の要ともなるべき校内組織を確立した上で、その計画を立案することが不可欠である。しかし、各学校がキャリア教育を推進するに当たっては、計画の立案に先だって、児童生徒の生活や意識あるいは家庭、地域の実態などから、自校の児童生徒のキャリア発達を促す上で、何が課題か、どのような能力・態度の育成に重点を置くべきかなどを検討し、自校の児童生徒に育成すべき「能力・態度」に焦点を絞った、自校用のキャリア教育の「学習プログラムの枠組み」を作成することも考えられる。

「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」では、キャリア発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度が網羅的に示されている。表1は、A中学校第1学年において育成する能力・態度を学校の教育目標、生徒の実態等に照らして、焦点化した例である。

表1 4つの能力に視点をあいたA中学校(1学年)「学習プログラムの枠組み例」

|          |             |                                         |
|----------|-------------|-----------------------------------------|
| 人間関係形成能力 | 自他の理解能力     | ・自分のよさや個性が分かり、他者のよさや感情を理解し尊重する。         |
|          | コミュニケーション能力 | ・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を形成しようとする。           |
| 情報活用能力   | 情報収集・探索能力   | ・様々なメディアを通して産業・職業、進路等に関する情報を調査・収集、活用する。 |
|          | 職業理解能力      | ・体験等を通し、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。           |
| 将来設計能力   | 役割把握・認識能力   | ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。         |
|          | 計画実行能力      | ・希望する進路に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。      |
| 意思決定能力   | 選択能力        | ・自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。       |
|          | 課題解決能力      | ・自ら課題を見い出すことの大切さを理解し、主体的にその課題に取り組もうとする。 |

また、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」では、「身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上」に関して、低・中・高学年それぞれについて、複数の「育成が期待される能力・態度」が示されているが、その中から、自校では、どのような能力・態度の育成に重点を置くべきかを明らかにしていくという視点から、B小学校として例にまとめたものが表2である。

このように、自校用のキャリア教育の「学習プログラムの枠組み」を作成することによって、自校が取り組むキャリア教育について、育成すべき「能力・態度」のレベルで焦点化することができ、また、キャリア教育の全体像を把握することができることにもなる。

表2 発達課題に視点をあいたB小学校「学習プログラムの枠組み例」

| 発達課題                    | 発達を促すために育成する能力・態度                                                                   |                                                                         |                                                                                        |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
|                         | 低学年                                                                                 | 中学年                                                                     | 高学年                                                                                    |
| ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展    | 【人間関係形成能力】<br>・あいさつや返事をする。<br>・「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。                                 | 【人間関係形成能力】<br>・友達のよいところを認め、励まし合う。<br>・友達の気持ちや考えを理解しようとする。               | 【人間関係形成能力】<br>・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。                                        |
| ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上  | 【情報活用能力】<br>・係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。<br>【将来設計能力】<br>・家事の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。 | 【情報活用能力】<br>・係や当番活動に積極的に関わる。<br>【将来設計能力】<br>・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。        | 【意思決定能力】<br>・係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。<br>【将来設計能力】<br>・仕事における役割の関連性や変化に気付く。            |
| ・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得      | 【将来設計能力】<br>・家事の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。                                           | 【意思決定能力】<br>・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。                            | 【将来設計能力】<br>・憧れとする職業を持つ。                                                               |
| ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 | 【意思決定能力】<br>・自分のことは自分で行うとする。                                                        | 【情報活用能力】<br>・働くことの楽しさがわかる。<br>【意思決定能力】<br>・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 | 【情報活用能力】<br>・施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦労がわかる。<br>【将来設計能力】<br>・生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。 |

各学校は、自校の児童生徒のキャリア発達を促す上で、何が課題で、どのような能力・態度を育成すべきかを焦点化し、把握した上で、目標や内容・方法などから構成されるキャリア教育の計画を作成することとなる。このようなことから、次のようなことに留意しておく必要がある。

#### 目標の設定

学校が行うキャリア教育が目指すところは、児童生徒が社会生活・職業生活に円滑に移行し、よりよく適応するために必要な「能力・態度」を育成することであり、端的には、「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる」ことにある。各学校が、キャリア教育の計画を立案するに当たっては、まず、このような共通的な目標を踏まえつつ、自校の児童生徒のキャリア発達上の課題、育成すべき「能力・態度」の明確な把握とその焦点化に基づいて、自校のキャリア教育の目標を明らかにする。

#### 教育内容・方法の明確化

キャリア教育の計画を立案するに当たって、次に、学校は、目標を実現するための教育内容・方法を明らかにしなければならない。すなわち、「自校のキャリア教育の学習プログラムの枠組み」を作成する過程で、自校の児童生徒に育成すべきことが明らかになった「能力・態度」を、どのような教育内容や方法で育成するかの計画を立てなければならない。

それは、「身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上」という発達課題を、「身近な職業人の働く様子を見学したり、手伝ったりした体験を持つ。」ことなどによって達成するわけであるが、そのために、どのような指導内容・方法があるかを考え、具体的な手立てを含めて立案するということである。

例えば、5、6年生の子どもと保護者の学習・体験活動として、午後児童が家で家事や家業を手伝い、保護者が学校でキャリア教育に関する学習を受ける「半日、親子逆転体験」や、「親子で綴るお手伝い日記」、あるいは家族や身近な大人の1日職場見学・訪問を実施することなどが考えられる。また、「いろいろな職業・産業があることが分かる。」という「能力・態度」の形成を、3、4年生の社会科の学習として計画したり、「身近で働く人々の様子に興味・関心を持つ。」という「能力・態度」の形成を、1、2年生の生活科の体験活動などで計画したりすることも考えられる。

#### 「4つの能力」と特別活動、道徳等との関連

キャリア教育はこれまでの中・高等学校が取り組んできた進路指導の枠組みにとどまるものではないが、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」で示されている「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の「4つの能力」は、中・高等学校学習指導要領の学級活動・ホームルーム活動の内容(3)で示されている「進路適性の吟味(理解)と進路情報の活用」「望ましい職業観・勤労観の形成」「主体的な進路の選択(決定)と将来設計」の3つの項目及び学校行事の「勤労生産・奉仕的行事」の内容と、言葉の上で、多くが共通している。また、「4つの能力」として育成すべき「能力・態度」には、これまで中・高等学校が学級活動・ホームルーム活動における進路学習や「勤労生産

・奉仕的行事」での体験活動で育成してきた「能力・態度」が多く含まれている。

同様に、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」で示されている「人間関係形成能力」は、言葉としては、学習指導要領の特別活動の学級活動・ホームルーム活動の内容(2)で示されている「望ましい人間関係の確立」などと共通しており、さらに、「4つの能力」として育成すべき「能力・態度」には、学級活動・ホームルーム活動の(1)で示されている「学級(ホームルーム)内の組織づくりや仕事の分担処理」のなかで育成してきた「能力・態度」と重なっている。

このように、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」で示されている「4つの能力」、それを育成するためのキャリア教育の内容は、学習指導要領の特別活動で示されている学級活動・ホームルーム活動や「勤労生産・奉仕的行事」の内容と、少なからず共通していることから、各学校が計画するキャリア教育の内容について、特別活動の同事項に位置付けることができるのである。

また、キャリア教育における道德性の育成にかかわる体験は、「道德の時間」との関連を意図し内容を工夫することによって、道德的価値の大切さを自覚し人間としての在り方や生き方についての思考を深める上で効果的にはたらく。例えば、4つの能力領域の「人間関係形成能力」の育成は、「道德」の学習内容である「主として他の人とのかかわりに関すること」と深くかかわる。このように、キャリア教育における活動は、社会の構成員として求められる思いやりの心、奉仕の精神、公共の福祉、心身の健康、協力・責任、公德心、勤労などにかかわる道德性の育成に資するものである。そして、それらの内容項目を「道德の時間」で取り扱うことは、キャリア教育の視点からみても児童生徒の内面的価値の形成を図ることにつながる。

さらに、中学校における「情報活用能力」として、「生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。」ことが期待されるわけであるが、このような能力の育成は、「技術・家庭」の学習内容である「情報とコンピュータ」に位置付けることも考えられる。また同様に、中学校における「将来設計能力」として、「将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心を高める。」ことが期待されるわけであるが、このような興味・関心の育成は、ただ単に進路に関する学習としてではなく、各教科の学習に対する興味・関心と深く結びついているのである。

ここでは、「4つの能力」で育成することが期待されている「能力・態度」について主に特別活動、道德を中心に述べたが、各教科・科目、総合的な学習の時間における学習や活動、あるいは部活動等なども含め、学校教育活動全体で進めることが大切であることはいうまでもない。

### (3) 小学校・中学校・高等学校における発展的な取組の工夫

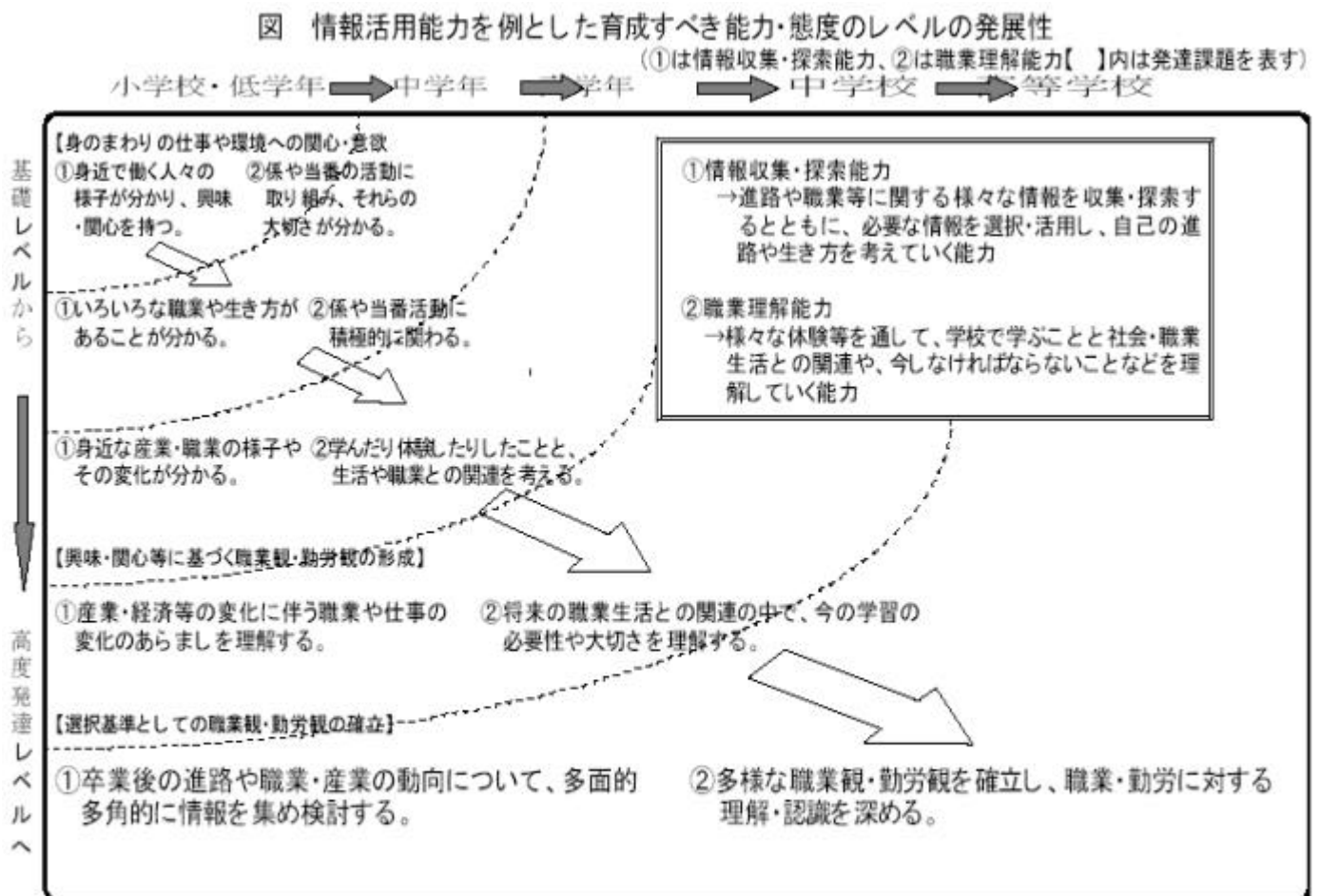
キャリア教育には、小学校・中学校・高等学校を通じて一貫した教育活動として発展的に取り組まれることが期待されることから、小学校から中学校へ、中学校から高等学校へと段

階的・漸次的な能力や態度の育成が求められる。

図は、「4つの能力」のうち「情報活用能力」を取り上げてみたときの小学校・中学校・高等学校における育成すべき能力・態度のレベルの発展性を示したものである。

小学校から中学校、中学校から高等学校へといった各学校段階間での発展的な取り上げ方について、「職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み(例)」で考えると、小学校段階での「身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上」という発達課題は、中学校では、「興味・関心に基づく職業観・勤労観の形成」という発達課題に、そして高等学校では、「選択基準としての職業観・勤労観の確立」という発達課題につながる。また、同様に、「育成されることが期待される能力・態度」の「具体的な行為のレベル」では、小学校低学年での「身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ」が、中学年での「いろいろな職業や生き方が分かる」に、さらに高学年での「身近な産業・職業の様子やその変化が分かる」へと、そして中学校での「産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する」へと、さらには高等学校での「卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する」へと、漸次発展するととらえることができる。

このように、「人間関係形成能力」や「将来設計能力」、「意思決定能力」においても同様に育成すべき能力・態度を発展的にとらえることができる。



※この図は、4つの能力のうち情報活用能力を取り上げてみたときの小・中・高における育成すべき能力・態度のレベルの発展性を図示したものであり、これ以外の「人間関係形成能力」や「将来設計能力」、「意思決定能力」においても同様にレベルの発展性をとらえることができる。

小学校から中学校へ、中学校から高等学校へと発展的に取り上げるためには、小学校と中学校あるいは中学校と高等学校との連携を考慮しなければならない。すなわち、小学校から見て中学校段階で育成すべき「能力・態度」の理解、中学校から見たときの小学校段階までで育成された「能力・態度」の理解が、あるいは、中学校から見て高等学校段階で育成すべき「能力・態度」の理解と高等学校から見たときの中学校段階までに育成が求められる「能力・態度」の理解が必要となる。そこで初めて、各学校段階で育成すべき「能力・態度」が系統的に再構成されて、それぞれの学校段階での発展的な取組が可能となるのである。

「職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み(例)」では、育成すべき能力・態度を、「...する。」「...取り組む。」「...分かる。」「...理解する。」などといった知識・理解や行為のレベルで提案している。そこで、小・中・高等学校の各学校段階でのキャリア発達課題の達成を、どのような能力・態度の育成を通じて行うかということについて、すなわち、「発達課題と育成すべき能力・態度との関連」の視点から、「学習プログラムの枠組み(例)」が示す「4つの能力」の具体的な知識・理解や行為について整理を試みたのが、次の表1、表2、表3である。各学校において、キャリア教育に取り組む上での一つの参考とされたい。



表3 キャリア発達課題に対し重点的に育成すべき能力・態度（小学校例）

| 発 達 課 題                 | 発達を促すために育成することが期待される能力・態度                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                         | 低 学 年                                                                                                                                                                                                 | 中 学 年                                                                                                                                                                                                                                       | 高 学 年                                                                                                                                                                                                                                   |
| ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展    | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・友達と仲良く遊び、助け合う。<br>・あいさつや返事をする。<br>・「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。                                                                                                                         | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・自分のよいところを見つける。<br>・友達のよいところを認め、励まし合う。<br>・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。<br>・友達の気持ちや考えを理解しようとする。<br>・友達と協力して、学習や活動に取り組む。                                                                                                       | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを理解する。<br>・話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。<br>・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。                                                                                                               |
| ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上  | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・お世話になった人などに感謝し親切にする。<br><b>【情報活用能力】</b><br>・身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。<br>・係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・家事の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。<br>・決められた時間やきまりを守るようとする。 | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・自分の生活を支えている人に感謝する。<br><b>【情報活用能力】</b><br>・いろいろな職業や生き方が分かる。<br>・係や当番活動に積極的に関わる。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。                                                                                             | <b>【情報活用能力】</b><br>・身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。                                                                                         |
| ・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得      | <b>【将来設計能力】</b><br>・家事の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・自分の好きなもの、大切なものを持つ。                                                                                                            | <b>【将来設計能力】</b><br>・将来の夢や希望を持つ。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。                                                                                                                                                      | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・憧れとする職業を持つ。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。<br>・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。                                                                |
| ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 | <b>【情報活用能力】</b><br>・係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・家事の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・自分のことは自分で行おうとする。                                                             | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・自分の生活を支えている人に感謝する。<br><b>【情報活用能力】</b><br>・いろいろな職業や生き方が分かる。<br>・係や当番活動に積極的に関わる。<br>・働くことの楽しさがわかる。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。<br>・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。<br>・計画づくりの必要性に気づき、作業の手順がわかる。 | <b>【情報活用能力】</b><br>・施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦労がわかる。<br>・学んだり体験したりしたことと、生活や職業との関連を考える。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・憧れとする職業を持つ。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。<br>・生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。<br>・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。 |

\* 「職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み（例）」（第2章参照）を参考に例示したものである。

表 4 キャリア発達課題に対し重点的に育成すべき能力・態度（中学校例）

| 発 達 課 題              | 発達を促すために育成することが期待される能力・態度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                      | 低・中学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 中・高学年                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得    | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・新しい環境や人間関係に適応する。<br>・自分のよさや個性がわかり、他者のよさや感情を理解し、尊重する。<br>・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。<br>・自分の言動が相手や他者に及ぼす影響がわかる。                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。<br>・リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をやる。<br>・自分の悩みを話せる人を持つ。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための自分の役割やその方法等が分かる。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・自己の個性や関心に基づいて、よりよい選択をしようとする。                                                        |
| ・興味・関心に基づく職業観・勤労観の形成 | <b>【情報活用能力】</b><br>・体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。<br>・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。                                                                                                                                                                                                                                                                            | <b>【情報活用能力】</b><br>・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための自分の役割やその方法等が分かる。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。                                                                                                                     |
| ・進路計画の立案と暫定的選択       | <b>【情報活用能力】</b><br>・産業・経済の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。<br>・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。<br>・進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分のめざすべき将来を暫定的に立案する。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。<br>・選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことを理解する。                                                                                                                                                 | <b>【情報活用能力】</b><br>・上級学校等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴が分かる。<br>・係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための自分の役割やその方法等が分かる。<br>・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・教員や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。<br>・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。 |
| ・生き方や進路に関する現実的探索     | <b>【情報活用能力】</b><br>・産業・経済の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。<br>・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し、活用する。<br>・体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。<br>・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。<br>・進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分のめざすべき将来を暫定的に立案する。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。<br>・選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことを理解する。<br>・よりよい生活や学習、進路や生き方等をめざして、自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 | <b>【情報活用能力】</b><br>・上級学校等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴が分かる。<br>・必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・教員や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。<br>・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。<br>・学習や選択の過程を振り返り、次の場面に生かそうとする。               |

\* 「職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み（例）」（第2章参照）を参考に例示したものである。

表5 キャリア発達課題に対し重点的に育成すべき能力・態度（高等学校例）

| 発 達 課 題             | 発達を促すために育成されることが期待される能力・態度                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                     | 低・中学年                                                                                                                                                                                                               | 中・高学年                                                                                                                                                                                                                                      |
| ・自己理解の深化と自己受容       | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・新しい環境や人間関係を生かす。<br>・互いに支え合い分かり合える友人を得る。<br>・自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。<br>・異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じた適切なコミュニケーションを図る。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的役割を果たす。                | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。<br>・リーダー・フォロアーズシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。<br><b>【人間関係形成能力】</b><br>・自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。                |
| ・選択基準としての職業観・勤労観の確立 | <b>【情報活用能力】</b><br>・職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などがわかる。<br>・就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。<br>・調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・選択の基準となる自分なりの価値観・勤労観を持つ。                              | <b>【情報活用能力】</b><br>・卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。<br>・多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。                                                                                                                                          |
| ・将来設計の立案と社会的移行の準備   | <b>【将来設計能力】</b><br>・学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的役割を果たす。<br>・ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。<br>・将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・選択の基準となる自分なりの価値観・勤労観を持つ。<br>・進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。 | <b>【情報活用能力】</b><br>・卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。<br>・職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路設計を立案する。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。             |
| ・進路の現実準備と試行的参加      | <b>【情報活用能力】</b><br>・社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。<br>・就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。                                                                 | <b>【人間関係形成能力】</b><br>・自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。<br><b>【将来設計能力】</b><br>・将来設計・進路設計の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。<br><b>【意思決定能力】</b><br>・将来設計、進路設計の実現を目指して課題を設定し、その解決に取り組む。<br>・選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。<br>・理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身に付ける。 |

\* 「職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み（例）」（第2章参照）を参考に例示したものである。

## 2 研修プログラム例

### (1) キャリア教育推進のための研修計画

キャリア教育の推進には、すべての教員が児童生徒のキャリア発達や、社会環境、産業構造をよく理解し、キャリア教育の意義を十分認識することが重要である。また、キャリア教育を進めるためには、児童生徒と適切にかかわり、その変化を的確にとらえることのできる人間関係形成能力（コミュニケーション能力、コミュニケーション・スキル）や基本的なキャリア・カウンセリング能力の習得が求められる。

さらに、キャリア教育の指導的な立場の教員には、これらに加えてキャリア教育のプログラム開発・運営・評価能力や、様々な場面での連携を円滑に進めるための調整能力（コーディネーション能力）など、より専門的な能力の向上が求められる。

このようなことから、計画的・系統的な研修を実施していくことが、今後必要であることから、ここでは、以下のように「全教員を対象とする研修」と、「指導者養成研修」について具体的な研修プログラムを例示する。

#### 研修のタイプ

|                  |   |                |
|------------------|---|----------------|
| 1 全教員を対象とする研修    | } | 校内研修・・・・・・・・・・ |
|                  |   | 都道府県等での研修・・・・  |
| 2 キャリア教育の指導者養成研修 |   | 都道府県等での研修      |

### (2) 全教員を対象とする研修

この研修は、教員として、キャリア教育についての理解とその推進のために必要な知識の習得及び基本的な資質向上を図ることを目的としたものである。

#### 研修で取り上げる項目例

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1)キャリア教育についての理解の深化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>a.)キャリア教育の求められる背景の理解</li><li>b.)キャリア教育についての理解</li><li>c.)キャリア教育を通じて育成すべき能力・態度と「学習プログラムの枠組み」についての理解</li><li>d.)小・中・高を通じたキャリア教育推進のための相互理解の深化</li></ul> <p>2)キャリア教育の推進に必要な知識と基本的な能力の習得</p> <ul style="list-style-type: none"><li>a.)社会動向、経済状況についての理解</li><li>b.)児童生徒の心理的・社会的な発達、キャリア発達について理解すると同時に、児童生徒理解の意味や方法について学ぶ</li><li>c.)自校の教育課程をキャリア教育の視点から見直し学習プログラムを作成する能力の習得</li><li>d.)キャリア教育の中心に据えられる体験活動の意義と生かし方、さらに家庭・地域との連携の進め方についての理解</li><li>e.)キャリア教育の推進に欠かせないキャリア・カウンセリングの基本的能力の習得</li></ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

これらについての校内研修及び都道府県研修の展開例が、以下の通りである。

#### 校内研修

校内研修のプログラムは、上記の研修項目から校内で実施可能な項目を取り上げて、年間を通して5回程度で実施するものである。また、別途、授業案作りや小・中・高合同の授業研究会など、より実践的な研修についても、以下にその研修例を示してある。なお、実施においては、保護者、地域等の方々の参加についても考慮することが大切である。

## 研修例

| 回   | 研修のテーマ          | 目的                                                                                                                                             | 内容例及び留意点                                                                                                                                                                                                                              |
|-----|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | キャリア教育の意義       | <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の意義を理解する。</li> <li>「社会の仕組みや経済社会の構造」についての理解を深める。</li> <li>キャリア教育推進に不可欠な教員全体の意識を高める。</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>指導者養成研修を受講した講師を招きキャリア教育が求められる背景（社会の仕組みや経済社会の構造なども含む）やその基本的な理念について学ぶ。</li> <li>グループに分かれて、キャリア教育についてのそれぞれが持つイメージを話し合う活動等も有効である。</li> </ul>                                                       |
| 第2回 | キャリア教育の目標の設定    | <ul style="list-style-type: none"> <li>自校の児童生徒のキャリア発達上の課題や育成すべき能力・態度を明らかにし、キャリア教育目標を設定して育成したい生徒像を明らかにする。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>「学習プログラムの枠組み（例）」を用い、学校独自のキャリア教育目標を検討し、育成したい生徒像を明確にする。</li> <li>育成すべき能力・態度と各教科や特別活動等との関連を考え、年間指導計画を作る。</li> </ul>                                                                               |
| 第3回 | 小・中・高を通じたキャリア教育 | <ul style="list-style-type: none"> <li>小・中・高を通じたキャリア教育の必要性を理解する。</li> <li>相互のキャリア教育の内容の理解と連携の基礎を築く。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の小学校、中学校、高等学校のキャリア教育推進担当教員間での情報交換会を行う。</li> <li>将来的に、小・中・高で一貫した流れを持ったキャリア教育の実践をめざす機会とする。</li> </ul>                                                                                          |
| 第4回 | 家庭・地域との効果的な連携   | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域との連携の重要性を理解する。</li> <li>家庭や地域のキャリア教育に対する理解を促進する。</li> <li>各学校の特性を生かした効果的な連携の進め方について考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>講師（企業人やキャリア教育関係者）を招き、教員、保護者、地域の人々を対象に講演を実施する。</li> <li>保護者や地域の人々に協力を依頼できる活動内容や協力を仰ぐ方法と同時に、キャリア教育の趣旨を的確に伝える方法について話し合う。</li> <li>日頃からの保護者との関係作りが重要であるという認識に立ち、保護者会の効果的な進め方などについても考える。</li> </ul> |
| 第5回 | キャリア・カウンセリング    | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的なカウンセリング能力が全教員に必要であることを理解し、その実際を学ぶ。</li> </ul>                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>講師を招き、講義と演習を行う。</li> <li>ビデオ視聴やその逐語録を見ることで、生徒の話を聴く際の望ましい態度や応答のあり方について理解を深める。</li> </ul>                                                                                                        |

## 校種間、保護者、地域社会との連携を視野に入れた研修例

| 研修のテーマ           | 目的                                                                               | 内容例及び留意点                                                                                                                                                          |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| キャリア教育の学習プログラム作り | <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育目標を踏まえた学習プログラムを作る能力を高める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>年間指導計画を受け、育成すべき能力・態度との関わりを明確にしなが、教科や総合的な学習の時間や特別活動などの題材系統図を作り、1時限のプログラムを作る。</li> </ul>                                     |
| 小・中・高での公開授業研究会   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習プログラムに基づく授業研究会で校種間の相互理解を深める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>小・中・高におけるキャリア教育の内容を相互に理解することで校種間の連携を深める。</li> <li>保護者、地域に向けても公開し、キャリア教育についての理解を深める契機とするとともに、連携・協力を得られる手がかかりとする。</li> </ul> |

## 都道府県等での研修

この研修は、「講義と演習」を組み合わせ、専門的な内容構成とした集中研修プログラムである。

### 研修で取り上げる項目及び内容例

| 項目                  | 内容                                                                                                 |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| キャリア教育の理解           | キャリア教育の概念について理解するとともに、キャリア発達の中核となる能力についての理解を深め、日常生活での発達につなげることができるようにする。                           |
| 児童生徒の心理的・社会的発達      | 児童・生徒の心理的・社会的発達について学び、小・中・高等学校段階における児童生徒理解と、それをキャリア教育の実践に生かすことができるようにする。                           |
| 職業にかかわる体験活動の意義と生かし方 | 職業にかかわる体験活動の意義を理解するとともに、その活動と事前・事後の取組を通してキャリア・カウンセリングの実際を学ぶ。                                       |
| 児童生徒理解の意味と方法        | キャリア教育、キャリア・カウンセリングにおける児童生徒理解の意味と方法について理解する。                                                       |
| 児童生徒の生きる社会環境        | 高等学校卒業生等の進路の現状とそれらを取り巻く社会環境制度の変化について理解するとともに、職業生活に関わる制度や法規について理解する。                                |
| キャリア・カウンセリングの基礎     | カウンセリング場面だけでなく、すべての教育活動における基本的能力であるコミュニケーションスキル（話す、聴く、観る）を向上させ、その上で実際のキャリア・カウンセリングの進め方についての理解を深める。 |

上記の研修項目及び内容を「講義と演習」を交互に組み合わせる形で展開したプログラム例を以下に示す。

### 研修展開例

| 区分  | 研修順  | 1                                      | 2                                   | 3                   | 4                     |
|-----|------|----------------------------------------|-------------------------------------|---------------------|-----------------------|
| 1日目 | 研修内容 | キャリア教育についての理解                          | コミュニケーションの基礎的能力・態度の修得               | 児童生徒の心理的・社会的発達について  | コミュニケーションの基礎的能力・態度の修得 |
|     | 研修形式 | 講義                                     | 演習                                  | 講義                  | 演習                    |
| 2日目 | 研修順  | 5                                      | 6                                   | 7                   |                       |
|     | 研修内容 | 職業にかかわる体験活動の意義と生かし方                    | コミュニケーションの基礎的能力・態度の修得               | 児童生徒理解の意味と方法        |                       |
|     | 研修形式 | 演習                                     | 演習                                  | 講義・演習               |                       |
| 3日目 | 研修順  | 8                                      | 9                                   | 10                  |                       |
|     | 研修内容 | ・カウンセリングの基礎的理解<br>・キャリア・カウンセリングについての理解 | ・カウンセリングプログラムの理解<br>・相談関係づくりの大切さを知る | 児童生徒の生きる社会環境についての理解 |                       |
|     | 研修形式 | 講義                                     | 演習                                  | 講義・演習               |                       |

(3) 指導者養成のための研修

キャリア教育のコーディネーターや指導者として、より専門的な知識と能力の習得を目的として実施する研修例が以下の通りである。

研修で取り上げる項目例

- 1) キャリア教育の実践者としての資質・能力向上
  - a) キャリア教育についての理解の深化
  - b) キャリア教育を推進する上での課題発見・解決能力の向上
  - c) キャリア教育プログラムの開発運営能力の向上
  - d) コミュニケーション能力の向上
  - e) カウンセリングプロセスの理解と援助能力の向上
- 2) キャリア教育の指導者としての能力向上
  - a) インストラクション能力の向上
  - b) コンサルテーション能力の向上
  - c) コーディネーション能力の向上
  - d) プログラム開発・評価能力の向上
  - e) グループダイナミクスについての理解
  - f) ポートフォリオについての理解

- 注 \* インストラクション能力：受講者に応じて効果的かつ明確に教授する能力  
 \* コンサルテーション能力：生徒の指導・援助に関わる担任、保護者等に対して援助する能力  
 \* コーディネーション能力：組織内、外の活動や関係を目的に沿って効果的に働くよう調整する能力  
 \* グループダイナミクス：集団活動における種々の関係において働く様々な力関係  
 \* ポートフォリオ：児童生徒の学習成果を継続的に蓄積したもの

上記のような項目を3日間で展開したプログラム例は以下の通りである。  
 なお、この研修プログラムでは、研究・協議・発表という作業を通して、様々な能力の向上に資することをねらいとしている。

研修展開例

| 区分  | 研修順  | 1                                                                                                          | 2                                                                                                                                            | 3                                                                                                                          |
|-----|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1日目 | 研修内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育についての理解の深化と推進する上での課題の明確化</li> <li>・インストラクション能力の向上</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育についての理解の深化と推進する上での課題の明確化</li> <li>・インストラクション能力の向上</li> <li>・グループダイナミクス（集団における力学）の基本</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム開発運営能力の向上</li> <li>・プログラム開発能力の向上</li> <li>・グループダイナミクス（集団における力学）の基本</li> </ul> |
|     | 研修形式 | 研究協議・演習                                                                                                    | 研究協議・演習                                                                                                                                      | 研究協議・演習                                                                                                                    |
| 2日目 | 研修順  | 4                                                                                                          | 5                                                                                                                                            | 6                                                                                                                          |
|     | 研修内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム開発運営能力の向上</li> <li>・プログラム評価能力の向上</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションスキルの基礎の復習</li> </ul>                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・援助能力の向上</li> <li>・職業・進路情報の活用</li> <li>・カウンセリングプロセスの基本の実践</li> </ul>                |
|     | 研修形式 | 研究協議・演習                                                                                                    | 演習                                                                                                                                           | 演習                                                                                                                         |
| 3日目 | 研修順  | 7                                                                                                          | 8                                                                                                                                            |                                                                                                                            |
|     | 研修内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオの活用</li> </ul>                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンサルテーション能力とコーディネーション能力の向上</li> </ul>                                                                |                                                                                                                            |
|     | 研修形式 | 講義・演習                                                                                                      | 演習                                                                                                                                           |                                                                                                                            |

この研修プログラムで取り上げる具体的な内容及びその進め方としては以下のよう  
なものと考えられる。

### 項目及び内容例

| 項 目                                                        | 内 容                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| キャリア教育についての理解の深化と推進する上での課題の明確化                             | グループに分かれ、各自がキャリア教育を推進する上での疑問や課題を発表し、その解決に向けて協議する中でキャリア教育の意義を明確にし、その理解を深め、課題の解決策を見出す力を向上する。                                                                                        |
| インストラクション能力の向上                                             | 各グループでの討議内容を全体に発表するに当たり、プレゼンテーションや、インストラクションの技術についての能力を高める。                                                                                                                       |
| グループダイナミックスの<br>(集団における力学)<br>基本                           | グループに分かれての活動を通して、そのグループメンバー間の関係やその変化を見る視点を身に付ける。集団で行うことのメリット、デメリット、及び集団の効果を高めるためのポイントを実践的に理解し、小集団を通して行われるガイダンス活動や教育活動の中で生かす力を身に付ける。                                               |
| ・プログラム開発・<br>運営能力の向上( )<br>・プログラム開発能<br>力の向上               | 各校種毎にグループに分かれ、各自が開発してきたキャリア教育のプログラムを全体に提案し、相互に評価し合う。その中でプログラム開発運営能力と同時に発表能力を高める実習を行う。さらに、グループとして一つのプログラムを開発・発表する活動を通して、グループダイナミックスについての理解を一層深める。                                  |
| ・プログラム開発運<br>営能力の向上( )<br>・プログラム評価能<br>力の向上                | 「プログラム開発運営能力の向上」では、自らが実践者としてプログラムを開発するために必要な知識・能力を身に付け、「 」では指導者として他者、他校が考えたプログラムを評価できる能力を高める。グループ単位で発表されたものに対して、自らの評価の視点を明確にしながら評価し、同時に他者の評価の視点をすることで、評価の視点の幅を広げ、指導者としての評価能力を高める。 |
| コミュニケーションスキルの基礎<br>の復習                                     | コミュニケーションスキルの基礎となる「話す能力」、「聴く能力」、「観る能力」について再度意識し、その意味を理解するとともに、キャリア教育におけるこの能力の重要性についての理解を深める。                                                                                      |
| ・援助能力の向上<br>・職業・進路情報の活用<br>・キャリア・カウンセリング<br>プロセスの基本の<br>実践 | ビデオを通して、キャリア・カウンセリングの重要な部分である、職業・進路情報を活用して課題の明確化を図る対応のプロセスを学ぶ。<br>また、実際にロールプレイを通して、援助をより効果的にするためのキャリア・カウンセリング過程についての基礎を学び、教員としての援助能力を向上させる。                                       |
| ポートフォリオの<br>活用                                             | ポートフォリオは、児童生徒の諸能力・態度・技能の習得の履歴を把握し、児童生徒のキャリア発達を評価するものであること、そして、その活用によって児童生徒自身に自己の能力や自己の成長に気付かせ、将来への目標を持たせることができることを理解する。                                                           |
| コンサルテーション<br>能力の基本                                         | キャリア教育の中核を担う教員には、個々の生徒への援助のみならず、生徒の指導・援助に関わる担任、保護者等への援助能力が求められる。この活動をコンサルテーションと呼ぶ。その留意点を理解するとともに、コンサルテーションの基本を習得する。                                                               |
| コーディネーション<br>能力の向上                                         | 学校等の組織では、組織内（例校務分掌同士等）や組織外（例求人先事業所、ハローワーク等）の活動や関係を、目的に沿って効果的に働くように調整（コーディネート）することが求められる。この活動を「コーディネーション」と呼び、このコーディネーションの基本を習得する。                                                  |



参考 平成18年度 キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修  
独立行政法人教員研修センター

〔基礎コース〕

|        |                                                |                           |                                |                    |                                      |                |                    |                                     |                   |       |
|--------|------------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------|--------------------|--------------------------------------|----------------|--------------------|-------------------------------------|-------------------|-------|
| 基礎：1日目 | 9:30                                           | 10:00                     | 10:30                          | 11:50              | 13:00                                | 15:00          | 15:15              | 17:00                               |                   |       |
|        | 受付                                             | 開講式                       | 結果発表協議 1<br>「キャリア教育の現状と課題」     | 演習 1<br>休<br>み     | 発表・講評<br>「キャリア教育の実践と課題」              | 休憩             | 「キャリア教育の実践と課題」     |                                     |                   |       |
| 基礎：2日目 | 9:00                                           | 10:30                     | 10:45                          | 11:50              | 13:00                                | 14:30          | 14:45              | 15:30                               | 15:45             | 17:00 |
|        | 実践発表<br>「キャリア教育による学校改革」                        | 研究協議 1<br>「キャリア教育による学校改革」 | 休憩                             | 結果発表協議 2<br>休<br>み | 演習 2<br>「組織における人材育成(仮題)」             | 演習 3<br>休<br>み | 「コミュニケーションスキルの基礎」  | 休憩                                  | 「コミュニケーションスキルの基礎」 |       |
| 基礎：3日目 | 9:00                                           | 10:15                     | 10:30                          | 11:50              | 12:50                                | 15:45          | 16:00              | 17:00                               |                   |       |
|        | 結果発表協議 3<br>「小学生・中学生・高校生の職業にかかわる体験的活動の意義と生かし方」 | 演習 4<br>休<br>み            | 「コミュニケーションスキルの向上」              | 結果発表協議 4<br>休<br>み | 演習 5<br>「小学生・中学生・高校生の心理的・社会的発達と自己理解」 | 休憩             | 「各学校段階における課題とその対策」 |                                     |                   |       |
| 基礎：4日目 | 9:00                                           | 10:20                     | 10:35                          | 11:50              | 12:50                                | 14:15          | 14:30              | 15:45                               | 16:00             | 17:00 |
|        | 結果発表協議 5<br>「キャリア・カウンセリングについての理解」              | 演習 6<br>休<br>み            | 「カウンセリング・プロセス-相談関係づくりの大切さを知る-」 | 結果発表協議 6<br>休<br>み | 結果発表協議 7<br>休<br>み                   | 「多様な相談場面の理解」   | 休憩                 | 「小学生・中学生・高校生の生きる社会環境(職業や産業)についての理解」 |                   |       |
| 基礎：5日目 | 9:00                                           | 12:15                     |                                |                    |                                      |                |                    |                                     |                   |       |
|        | 研究協議 2<br>「研修講師となるための知識・技術」                    | 閉講式                       |                                |                    |                                      |                |                    |                                     |                   |       |

〔応用コース〕

|        |                                            |                    |                                 |                 |                                           |       |                                 |       |
|--------|--------------------------------------------|--------------------|---------------------------------|-----------------|-------------------------------------------|-------|---------------------------------|-------|
| 応用：1日目 | 9:30                                       | 10:00              | 10:30                           | 12:00           | 13:00                                     | 14:30 | 14:45                           | 17:00 |
|        | 受付                                         | 開講式                | 演習 1<br>「キャリア教育を推進するうえでの課題と解決策」 | 発表・講評<br>休<br>み | 演習 2<br>「指導・教授能力の向上 - キャリア教育についての理解の深化 -」 | 休憩    | 「プログラム開発・運営能力 - プログラム開発能力の向上 -」 |       |
| 応用：2日目 | 9:00                                       | 12:30              |                                 | 13:30           | 14:30                                     | 15:30 | 15:45                           | 17:00 |
|        | 演習 3<br>「プログラム開発・運営能力 - プログラム開発・評価能力の向上 -」 | 結果発表協議 1<br>休<br>み |                                 | 演習 4<br>休<br>み  | 「学校教育におけるキャリア教育の進め方」                      | 休憩    | 「カウンセリング過程の基本の実践」               |       |
| 応用：3日目 | 9:00                                       | 10:30              | 10:45                           | 11:45           | 12:45                                     | 15:15 |                                 |       |
|        | 演習 5<br>「カウンセリング過程の基本的実践」                  | 結果発表協議 2<br>休<br>み | 「コンサルテーション能力とコーディネーション能力の向上」    | 研究協議<br>休<br>み  | 「学校教育におけるキャリア教育の進め方」                      |       | 閉講式                             |       |

# 關係資料

# キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 ～ 児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために～の骨子

## はじめに

少子高齢社会の到来，産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等を背景として，就職・進学を問わず進路選択をめぐる環境は大きく変化  
学校における教育活動がともすれば「生きること」や「働くこと」と疎遠になったり，十分な取組が行われてこなかったのではないかという指摘  
本協力者会議は，初等中等教育における「キャリア教育」を推進していくための基本的な方向等について総合的に検討するため，平成14年11月に設置され，今般，報告書を公表  
本協力者会議の報告は，学校や教育関係者等における「キャリア教育」推進の指針となる提言

## 第1章 キャリア教育が求められる背景

### 1 学校から社会への移行をめぐる様々な課題

#### (1) 就職・就業をめぐる環境の激変

新規学卒者に対する求人は著しく減少  
求職希望と求人希望との不適合が拡大

#### (2) 若者自身の資質等をめぐる課題

勤労観，職業観の未熟さ  
職業人としての基礎的資質・能力の低下

### 2 子どもたちの生活・意識の変容

#### (1) 子どもたちの成長・発達上の課題

身体的な早熟傾向に比して，精神的・社会的自立が遅れる傾向  
生産活動や社会性等における未熟さ

#### (2) 高学歴社会におけるモラトリアム傾向

若者が職業について考えたり，職業の選択・決定を先送りにするモラトリアム傾向の高まり  
進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学したりする若者の増加

## 第2章 キャリア教育の意義と内容

### 1 「キャリア」をどうとらえるか

「キャリア」の解釈・意味付けは，それぞれの主張や立場，用いられる場面等によって多様  
「キャリア」とは「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」

### 2 キャリア教育の定義

端的には「児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てる教育」

中央教育審議会答申（平成11年12月）における定義：「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに，自己の個性を理解し，主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」

これを本協力者会議では，「キャリア」概念に基づき，「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し，それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえている

### 3 キャリア教育の意義

#### (1) 教育改革の理念と方向性を示すキャリア教育

キャリア教育は，一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から，従来の教育の在り方を幅広く見直し，改革していくための理念と方向性を示すもの

- (2) 子どもたちの「発達」を支援するキャリア教育  
キャリアが発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って形成されていくことを踏まえ、子どもたちの成長・発達を支援する視点に立った取組を推進
  - (3) 教育課程の改善を促すキャリア教育  
各領域の関連する諸活動を体系化し、組織的・計画的に実施することができるよう、各学校が教育課程編成の在り方を見直していくことが必要
- 4 キャリア教育の範囲と内容
- (1) 学校教育における各領域とキャリア教育  
キャリア教育は、学校のすべての教育活動を通して推進
  - (2) 小・中・高等学校学習指導要領におけるキャリア教育関連事項  
学習指導要領において、キャリア教育に関連する事項は相当数に上る  
各学校において活動相互の関連性や系統性に留意しながら、発達段階に応じた創意工夫ある教育活動を展開していくことが必要
- 5 進路指導、職業教育とキャリア教育
- (1) 進路指導とキャリア教育  
進路指導の取組はキャリア教育の中核。しかし、従来の進路指導においては、「進路決定の指導」や、生徒一人一人の適性と進路や職業・職種との適合を主眼とした指導が中心  
キャリア教育においては、キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導とが系統的に調和をとって展開。適合とともに、集団生活に必要な規範意識やマナー、人間関係を築く力やコミュニケーション能力など、適応にかかる幅広い能力の形成の支援を重視
  - (2) 職業教育とキャリア教育  
職業教育の取組はキャリア教育の中核。しかし、従来の職業教育の取組では、専門的な知識・技能を習得させることに重きが置かれており、生徒のキャリア発達をいかに支援するかという視点に立った指導は不十分  
今後、キャリア教育の視点に立って、子どもたちが働くことの意義や専門的な知識・技能を習得することの意義を理解し、その上で科目やコース、将来の職業を自らの意志と責任で選択し、専門的な知識・技能の習得に意欲的に取り組むことができるよう指導の充実が必要

### 第3章 キャリア教育の基本方向と推進方策

#### 1 キャリア教育の基本方向

- (1) 一人一人のキャリア発達への支援  
子どもたちのキャリア発達を支援するため、各発達段階における発達課題を踏まえ、また、発達における個人差に留意しながら、適時性や系統性などに配慮した諸活動を展開  
キャリアに関する個別あるいはグループ単位でのカウンセリングの機会の確保と質の向上
- (2) 「働くこと」への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上  
教科・科目の学習とキャリア教育との関係は、二者択一的な関係ではなく、職業や進路などキャリアに関する学習が教科・科目の学習や主体的に学ぼうとする意欲の向上に結びつき、教科・科目の学習がキャリアに関する学習への関心や意欲の向上につながるという、相互補完的な関係
- (3) 職業人としての資質・能力を高める指導の充実  
職業教育の専門性の向上に努めるとともに、高等学校段階までの学習が、それ以降のより高度な専門的な知識・技能を習得する学習につながるよう、基礎・基本の充実・徹底が必要  
普通教育においても、将来の職業生活を視野に入れ、情報活用能力や外国語の運用能力等、今後、社会や企業で一層必要となる能力を身に付けられるようにすることが重要
- (4) 自立意識の涵養と豊かな人間性の育成  
働くことには、生計の維持、自己実現の喜びとともに、社会に参画し社会を支えるという意義があることの理解  
小学校段階から、自己と他者や社会との適切な関係を構築する力を育て、将来の精神的、経済的自立を促していくための意識の涵養と豊かな人間性の育成

## 2 キャリア教育推進のための方策

- (1) 「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラムの開発  
児童生徒の各発達段階における発達課題の達成との関連から、各時期に身に付けることが求められる能力・態度の到達目標を具体的に設定  
個々の活動がどのような能力・態度の形成を図ろうとするものであるのか等の明確化が重要  
先進的な取組事例の情報提供や学習プログラムの開発・普及
- (2) 教育課程への位置付けとその工夫  
各学校が、キャリア発達の支援という視点から自校の教育課程の在り方を点検・改善していくことが重要  
児童生徒の発達段階を踏まえ、各校種が果たすべき役割や他校種における活動内容・方法・形態等を把握するなど、校種間の連携や一貫性にも留意  
今後、各学校における取組状況等を踏まえ、キャリア教育を一層推進する観点から、学習指導要領上の取扱いについて検討していく必要
- (3) 体験活動等の活用  
体験活動等は、職業や仕事についての具体的・現実的理解の促進、勤労観、職業観の形成等の効果があり、社会の現実を見失いがちな現代の子どもたちが現実立脚した確かな認識を幅広くむ上で欠かすことができないもの  
体験活動等が一過性の行事にならないよう、事前・事後の指導など、周到的準備と計画のもとに実施する必要があること
- (4) 社会や経済の仕組みについての現実的理解の促進等  
社会の仕組みや経済社会の構造とその働きについて、人生の早い段階からの具体的・現実的理解  
労働者としての権利・義務、相談機関等に関する情報・知識などの最低限の知識の習得
- (5) 多様で幅広い他者との人間関係の構築  
日頃から、多くの人々と幅広い人間関係を持つことができるよう働きかけ  
多くの大人が子どもたちとかわる様々な場や機会を積極的に設けていくことが重要

## 第4章 キャリア教育を推進するための条件整備

### 1 教員の資質の向上と専門的能力を有する教員の養成

- (1) 教員一人一人の資質向上  
キャリア教育の本質的理解をすべての教員が共有し、各教育活動等における個々の取組がキャリア教育においてどのような位置付けと役割を果たすものかについて、十分な理解と認識を確立することが不可欠
- (2) 学校のカリキュラム開発能力の向上  
各学校におけるキャリア発達への支援を軸としたカリキュラムの開発と、家庭、地域、企業等との幅広い連携・協力関係を得られるようなコーディネート（調整）能力を有する教員を養成するため、キャリア教育の中核的役割を担う教員を対象とした研修の充実
- (3) キャリア・カウンセリングを担当する教員の養成  
すべての教員が基本的なキャリア・カウンセリングを行うことができるような研修の充実  
「キャリア・カウンセリング研修（基礎）」、「キャリア・カウンセリング研修（専門）」の二つの研修プログラム例を示す  
教員養成段階においても、キャリア教育及びキャリア・カウンセリングにかかる基礎的・基本的な知識や理解が得られるような改善が必要

### 2 保護者との連携の推進

- (1) 学校からの保護者への積極的な働きかけ  
キャリア教育の推進に際しては、家庭や保護者の役割や影響の大きさを念頭に置き、家庭・保護者との共通理解を図りながら取り組むことが重要  
産業構造や進路をめぐる環境の変化等について、企業の人事担当者などから共に学んだり、積極的に情報提供したりするなどして、現実に即した情報交換や面談等を実施

- (2) 家庭の役割の自覚と学校教育への積極的な参画  
子どもたちに、様々な職業生活の実際や仕事には苦労もあるが大きなやりがいや達成感もあることを家庭の中で有形無形のうちに感じ取らせたりすることが重要
- 3 学校外の教育資源活用にかかるシステムづくり
- (1) 受入事業所等の確保と地域におけるシステムづくり  
体験活動の普及・円滑な実施・定着のためには関係機関が一体となって取り組むことが大切であり、体験活動推進のための協議会を組織するなど、地域のシステムづくりが必要
- (2) キャリア・アドバイザーの確保と活用  
キャリアを形成していく方法等について専門的な知識や情報を持っている人々をキャリア・アドバイザーとして学校に招き、講演・講話、懇談会等を実施  
職種、経歴、年齢等、幅広い層からキャリア・アドバイザーを確保できるよう、対象となる人材の名簿づくりや人材バンク登録システムなどを構築
- 4 関係機関等の連携と社会全体の理解の促進  
キャリア教育の意義を教育界から各界、各層に幅広く発信  
関係機関等が職場体験、インターンシップ等の実施やキャリア・アドバイザーの活用等について連絡・協議して推進していく場を国、地方の各レベルで整備
- (1) ハローワーク等との緊密な連携  
国、都道府県教育委員会等は、ハローワークの幅広い業務・施策について学校への周知を図り、各学校においては、日頃から緊密な情報交換に努めることが必要
- (2) 大学・専門学校等との連携  
高大連携にかかる取組は、大学・専門学校等への進学や大学・専門学校等卒業後の進路や職業について考えることになるなど、子どもたちのキャリア意識を高めるという視点を重視し、関係者が一体となった一層の工夫が望まれること
- (3) 関係団体・企業等の理解と協力の推進  
経済団体においては、職場体験やインターンシップ等の意義の周知及び受け入れへの協力等について、より広く傘下の企業に働きかけるとともに、企業等においては、社会的責任という認識のもと、学校の取組や生徒の活動を積極的に支援していく姿勢を持って協力していくことを期待

#### おわりに

今後、本報告の提言に基づく具体的な取組や事例等を紹介する「キャリア教育推進の手引き」（仮称）の作成など、様々な施策が必要  
大人自身が自己の在り方生き方を考えたり見直したりする姿勢を持つとともに、キャリア発達を支援する社会的気運を醸成し、社会全体で子どもたちに働きかけていくことが大きな課題

# キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書

～ 児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために ～ のポイント

就職・就業をめぐる  
環境の変化

若者の勤労観，職業観や職業人  
としての資質・能力をめぐる課題

高学歴社会におけるモラトリアム  
傾向などの生活意識の変容

学校の教育活動全体を通じて，児童生徒の発達段階に  
応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が必要

**「キャリア教育」とは 児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てる教育**

## キャリア教育の基本方向

一人一人の実態・状況の的確な把握と成長・発達への支援

キャリア・カウンセリングの機会の確保と質の向上

「働くこと」への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上

職業や進路などキャリアに関する学習と教科・科目の学習との相互補完性の重視

職業人としての資質・能力を高める指導の充実

基礎・基本の学習の充実・徹底，情報活用能力・外国語運用能力等の向上

自立意識の涵養と豊かな人間性の育成

働くことの意義の理解，早期からの自立性・社会性の涵養

## キャリア教育推進のための方策

各発達段階に応じた「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラムの開発

各学校における教育課程への適切な位置付けと指導の工夫・改善

体験活動等の活用（職場体験，インターンシップ等）

社会や経済の仕組みについての現実的理解，労働者としての権利・義務等の  
知識の習得

多様で幅広い他者との人間関係の構築

## キャリア教育を推進するための条件整備

教員の資質向上と専門的能力を有する教員の養成

キャリア教育の本質的理解の共有と認識の確立  
カリキュラム開発やコーディネート能力を有する  
中核的役割を担う教員の研修実施  
教員のキャリア・カウンセリング研修プログラムの  
開発・普及

学校外の教育資源活用にかかるシステムづくり

インターンシップ受入れ企業・機関等の確保など，  
体験活動等推進のための地域でのシステムづくり  
幅広い層からのキャリア・アドバイザー確保・活用  
のシステムづくり

保護者との連携の推進

関係機関等の連携と社会全体の理解の促進

関係機関等がインターンシップ等の実施について

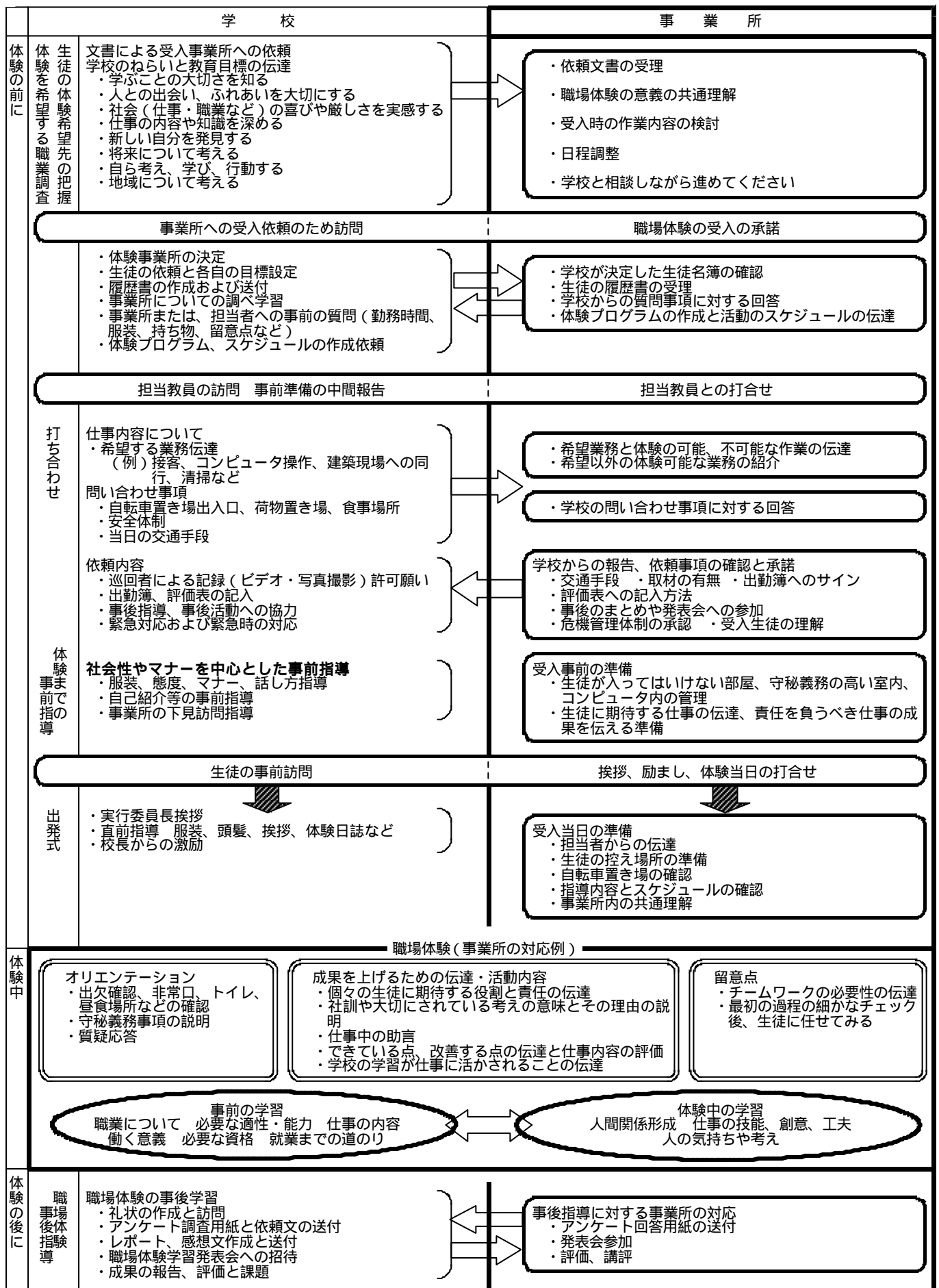
【職場体験学習チャートマップ(2学年:5日間実践例)】

| 過程                                                                                                                                                                                     | 生徒の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 学校の役割/保護者・体験先等の支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |    |          |                                                                            |                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 1学年<br>事前指導<br>2学年<br>職場体験に関する直前の指導                                                                                                                                                    | <p>将来の夢や職業、働くこと等を通じ自分の生き方について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夢や希望の実現に向けて(夢や希望、生き方への意欲の向上)</li> <li>・職業について考えよう(働くことの意義、職業の内容の理解等)</li> <li>・身近な職業を知ろう(身近な人の職業調べ)</li> <li>・自分の生き方を考えよう(自己の理解、適性の理解、職業人講話)</li> <li>・自分の将来を設計しよう(自己の進路デザイン、進路設計)等</li> </ul> <p>●<b>職場体験のねらいの理解、課題の明確化</b><br/>(「職場体験で何を学ぶのか...?」「職場体験での自分の目標は...?」そのねらいや自分の課題を十分に理解させる。)</p> <p>●<b>体験先希望調査</b><br/>体験先の選択・決定<br/>調査内容等の検討<br/>(質問事項、取材方法・内容、活動日誌、まとめ方等の検討)</p> <p>●<b>体験内容の調査、事前訪問</b><br/>(自己紹介、体験時間の確認、仕事内容の確認、交通手段、持ち物、服装、昼食、経費等)</p> <p>●<b>安全、緊急対応等に関する確認</b><br/>(欠席連絡の仕方、保険、緊急時の対応、保菌検査等)</p> <p>●<b>社会性やマナーに関する確認</b><br/>(心がまえ、あいさつ、マナー、手紙の書き方等)</p> <p>●<b>体験のまとめ方・事後学習の準備</b><br/>(体験のまとめ方、体験期間中のしおり・日誌等のまとめ方等)</p> | <p>3年間を見通した進路指導全体計画の作成<br/>職場体験実施計画の策定<br/>(ねらい、位置付け、時期等の検討)</p> <p>各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等との関連による学習活動</p> <p>支援組織等との連絡<br/>意義やねらいの明確化</p> <p>基本事項の確認<br/>(日時、期間、体験先、緊急対応等)</p> <p>体験受入先の確保<br/>体験先との連絡調整<br/>体験先との基本事項についての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験の具体的なねらい</li> <li>・生徒への配慮事項等の確認</li> <li>・仕事の内容</li> <li>・体験時間</li> <li>・昼食、交通手段、服装等</li> <li>・緊急時の対応</li> <li>・欠席等の連絡</li> <li>・評価等の協力依頼</li> </ul> |    |          |                                                                            |                                                                 |
| 5日間の職場体験                                                                                                                                                                               | 1日目<br>午前<br>自己紹介・あいさつ<br>職場体験実施の注意事項の確認<br>職場見学、施設等の説明<br>昼食<br>【職場になれよう、職場の方と話をしてみよう】<br>午後<br>仕事内容の見学<br>働くことを実感しよう(職業実習)<br>本日の反省・まとめ(ノート、日誌への記録)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校</th> <th>保護者・体験先等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊急対応体制の確認<br/>・全生徒の出勤、退勤時間の確認<br/>教職員による引率<br/>教職員による体験先へのあいさつ<br/>生徒の様子を確認や評価</td> <td>保護者による出欠等の連絡<br/>保護者、支援組織委員等による引率<br/>保護者、支援組織委員、教育委員会等によるあいさつや評価</td> </tr> </tbody> </table>                                                                                                                                               | 学校 | 保護者・体験先等 | 緊急対応体制の確認<br>・全生徒の出勤、退勤時間の確認<br>教職員による引率<br>教職員による体験先へのあいさつ<br>生徒の様子を確認や評価 | 保護者による出欠等の連絡<br>保護者、支援組織委員等による引率<br>保護者、支援組織委員、教育委員会等によるあいさつや評価 |
|                                                                                                                                                                                        | 学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 保護者・体験先等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |    |          |                                                                            |                                                                 |
|                                                                                                                                                                                        | 緊急対応体制の確認<br>・全生徒の出勤、退勤時間の確認<br>教職員による引率<br>教職員による体験先へのあいさつ<br>生徒の様子を確認や評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 保護者による出欠等の連絡<br>保護者、支援組織委員等による引率<br>保護者、支援組織委員、教育委員会等によるあいさつや評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |    |          |                                                                            |                                                                 |
|                                                                                                                                                                                        | 2日目<br>午前<br>朝のあいさつ、本日の仕事の確認<br>働くことを実感しよう(職業実習)<br>昼食<br>【「体験先」や「仕事」のことについて質問してみよう】<br>午後<br>働くことを実感しよう(職業実習)<br>本日の反省・まとめ(ノート、日誌への記録)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p><b>職場体験期間、見守る側のポイント!</b></p> <p>学校は……<br/>生徒の変化を観察しましょう<br/>(5日間の表情や態度の変化)<br/>生徒の不安なこと、困ったこと等を聞きましょう<br/>体験先の方にも、生徒の様子について聞いてみましょう</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                         |    |          |                                                                            |                                                                 |
|                                                                                                                                                                                        | 3日目<br>午前<br>朝のあいさつ、本日の仕事の確認<br>働くことを実感しよう(職業実習)<br>昼食<br>【なぜこの仕事についたのか?」「仕事についての考え」等について質問してみよう】<br>午後<br>働くことを実感しよう(職業実習)<br>本日の反省・まとめ(ノート、日誌への記録)<br>中学校での中間報告会(3日間の体験の確認、情報交換等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <p>保護者は……<br/>保護者の仕事や働くことに対する考えを、しっかりと話してあげてください<br/>社会の厳しさ、楽しさを話してあげてください<br/>体験先では、距離をおいて子どもを応援してあげましょう<br/>子どもの話をよく聴いてあげましょう</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                |    |          |                                                                            |                                                                 |
|                                                                                                                                                                                        | 4日目<br>午前<br>朝のあいさつ、本日の仕事の確認<br>働くことを実感しよう(職業実習)<br>昼食<br>【「生き方」「人生への考え」「職場の方の中学生時代」等について質問してみよう】<br>午後<br>働くことを実感しよう(職業実習)<br>本日の反省・まとめ(ノート、日誌への記録)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>体験先は……<br/>良いときはほめ、悪いときはしかってください<br/>社会的マナーや礼儀の大切さを教えてあげてください<br/>職業や働くことの大切さを話してあげてください<br/>自分の生き方や中学時代の重要性、学習の大切さ等について話してください</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                             |    |          |                                                                            |                                                                 |
| 5日目<br>午前<br>朝のあいさつ、本日の仕事の確認<br>働くことを実感しよう(職業実習)<br>昼食<br>【「自分の将来」や「悩み」等について話をしてみよう】<br>午後<br>働くことを実感しよう(職業実習)<br>本日の反省・まとめ(ノート、日誌への記録)<br>5日間のまとめ(体験先の方からの評価)<br>体験活動終了のお礼(今後の予定等の連絡) |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |    |          |                                                                            |                                                                 |
| 事後指導<br>3学年<br>事後学習                                                                                                                                                                    | <p>職場体験の記録のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験ノート、しおり、記録等のまとめ</li> <li>・職場体験全体の感想</li> </ul> <p>職場体験に対する多様な評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自己評価</li> <li>・教職員の評価</li> <li>・保護者からの評価</li> <li>・体験先の方からの評価</li> </ul> <p>礼状の作成</p> <p>学校全体の報告書等の作成</p> <p>事後訪問(職場体験の取組に対する生徒自身の再評価)</p> <p>職場体験報告発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表資料の作成</li> <li>・多様な体験を生徒間で共有化する機会(相互評価)</li> <li>・保護者、地域、体験先、先輩、後輩等からの多様な評価の機会</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>生徒の感想や自己評価の集計と分析</p> <p>保護者、体験先からの評価の集計と分析</p> <p>学校及び保護者、支援組織等からの礼状</p> <p>生徒の事後訪問への指導<br/>発表会の内容の検討</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |    |          |                                                                            |                                                                 |
|                                                                                                                                                                                        | <p>将来の進路に向けての主体的な学習(学習への意欲の向上)</p> <p>●<b>職場体験の経験をもとに、自分の進路を考え決定していこう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適性を生かした進路(自己の適性の再確認、職業の適性等)</li> <li>・卒業後に学ぶ道(中学校卒業後の上級学校等について)</li> <li>・自分の将来のデザイン(職業生活を考えた自分の将来設計等)</li> <li>・自分にあった進路先(中学校卒業後の進路先の選択・決定)</li> <li>・自分の道を切り拓こう(進路決定、自己実現への意欲の向上)</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>三者面談等による職場体験の評価・振り返り</p> <p>各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等との関連による学習活動</p> <p>上級学校訪問等への職場体験の経験の活用</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |    |          |                                                                            |                                                                 |



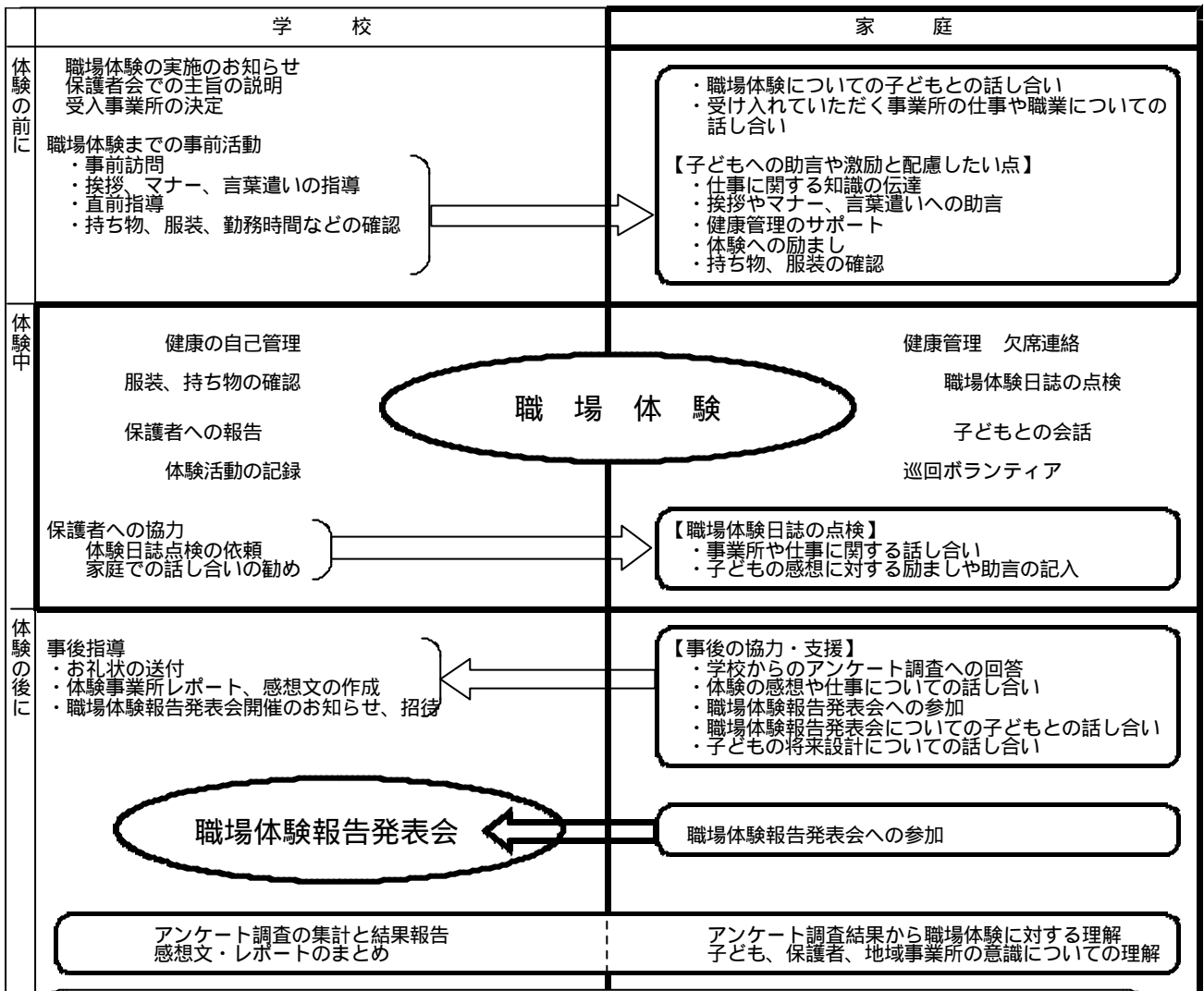
「職場体験ガイド」(文部科学省 平成17年11月)から

学校と事業所の連携



「職場体験ガイド」(文部科学省 平成17年11月)から

### 職場体験に関する学校の取組と保護者の対応



#### 職場体験へのPTAの連携・協力

職場体験は、保護者・地域の協力が必要不可欠な学習活動です。特にPTAの果たす役割はたいへん大きいものとなります。

#### 連携のポイント

- 職場体験に対する理解を得る説明
- 受入事業所の開拓
- 職場体験中の巡回ボランティア
- アンケート調査の集計ボランティア
- PTA広報の取材と掲載
- 体験活動後のお礼と継続のお願い

\*巡回ボランティア

職場体験中、生徒の体験事業所に訪問する保護者を「巡回ボランティア」として示す。

# キャリア教育推進の手引作成協力者会議要項

平成16年6月21日  
初等中等教育局長決定

## 1 趣 旨

今日、少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等を背景として子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。また、若者の勤労観、職業観の未熟さ、社会人・職業人としての基本的な資質・能力の低下等も指摘されている。

こうしたなか、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が求められていることから、平成16年1月28日に「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」の報告書がまとめられた。

本報告書の提言を受け、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進するために、キャリア教育の具体的な取組や事例等を紹介する手引を作成する。

## 2 実施期間

平成16年6月21日から平成17年3月31日までの間とする。

## 3 内 容

- (1) キャリア教育の意義と教育課程への位置付け
- (2) 小・中・高等学校を通じた組織的・系統的なキャリア教育
- (3) キャリア教育と家庭・地域との連携
- (4) 教員の資質の向上
- (5) その他

## 4 実施方法

別紙の関係者の協力を得て協力者会議を実施する。

## 5 庶 務

この協力者会議に関する庶務は、初等中等教育局児童生徒課において処理する。

## キャリア教育推進の手引作成協力者会議協力者

(五十音順、敬称略)

池 田 英 乗 (千葉県立天羽高等学校教諭)

板 橋 孝 志 (和歌山県教育委員会県立学校課長)

大 木 りえ子 (東京都渋谷区立代々木小学校教頭)

鹿 嶋 研之助 (千葉商科大学教授)

菊 地 武 剋 (東北大学教育学部長) (平成16年11月～)

高 橋 妃彩子 (東京都渋谷区立笹塚小学校長)

白 木 みどり (石川県松任市立北星中学校教諭)

藤 川 喜久男 (埼玉県所沢市立所沢中学校教頭)

本 城 慎 二 (東京都立つばさ総合高等学校教諭)

渡 辺 三枝子 (筑波大学教授)

・・・主査 職名は委嘱時のもの